

地方独立行政法人天王寺動物園

業務実績評価シート(個票)

令和 7 年度中の業務実績
(令和 8 年度に評価)

【全52項目】

【評価点】

- V : 計画を大幅に上回って実施している
- IV : 計画を上回って実施している
- III : 計画を順調に実施している
- II : 計画を十分実施できていない
- I : 計画を大幅に下回っている

評価シート（個票）

通し番号		1									
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。									
P	中期計画	第1-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。 また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。									
	年度計画	コレクション計画に基づく新規希少動物の導入に向けて国内外他園等と調整を図る。									
	評価事例	Ⅲ	・動物導入に向けた準備・交渉などの調整実績								
		Ⅳ	・動物導入に向けた準備・交渉により、園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例								
Ⅴ		・動物導入に向けた準備・交渉により、はるかに園の魅力向上に貢献できた事例									
D	行動	令和7年度に改定したコレクション計画に基づき、動物を導入した。 ◆令和7年度導入実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>コレクション計画における分類</th> <th>導入種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S（繁殖・導入優先）</td> <td>アジアゾウ（3頭・3月・マレーシアより） アムールトラ（1頭・6月・王子動物園より）</td> </tr> <tr> <td>A（繁殖・導入推進）</td> <td>ケープハイラックス（1頭・6月・京都市動物園より） レッサースローロリス（1頭・2月・千葉市動物公園より） フンボルトペンギン（4羽・11月・しまね海洋館アクアスより）</td> </tr> <tr> <td>B（繁殖可・現状維持）</td> <td>カリガネ（2羽・9月・多摩動物公園より） ソデグロヅル（1羽・9月・多摩動物公園より）</td> </tr> </tbody> </table> アジアゾウは国内外の動物園における飼育の歴史は長いものの、飼育下での繁殖例は依然として少なく、その繁殖行動や繁殖生理については研究途上にある。また、野生では長時間の採食行動や高い知能を有することから、飼育環境についても生態に即した継続的な改善が求められる。 本園では、平成26年に春子が死亡したことを契機としてゾウ導入の検討・情報収集を開始し、平成30年以降のラニー博子死亡以降はゾウ不在の状況が続く中で、市民等から導入を望む声が継続的に寄せられてきた。こうした背景を踏まえ、令和4年にマレーシアのタイピン動物園と保護プログラム等を締結し、学術研究および国際連携の推進を目的としてゾウを導入したものである。 種の保存は繁殖の成功のみによるものではなく、個体の健康や福祉、遺伝的多様性の確保など多面的な取組が不可欠である。本園ではアジアゾウの動物福祉の向上を図るため、環境エンリッチメントの充実やその効果を検証するための行動研究を進めるとともに、繁殖に関する研究を推進していく。また、糞中ホルモン測定等により得られる科学的知見を飼育管理や繁殖の推進に活用し、関係機関と連携しながら取組を進めていく。 これらの一連の取組の基盤となるゾウの導入は、種の保存につながる大きな成果として位置付けられるものである。		コレクション計画における分類	導入種	S（繁殖・導入優先）	アジアゾウ（3頭・3月・マレーシアより） アムールトラ（1頭・6月・王子動物園より）	A（繁殖・導入推進）	ケープハイラックス（1頭・6月・京都市動物園より） レッサースローロリス（1頭・2月・千葉市動物公園より） フンボルトペンギン（4羽・11月・しまね海洋館アクアスより）	B（繁殖可・現状維持）	カリガネ（2羽・9月・多摩動物公園より） ソデグロヅル（1羽・9月・多摩動物公園より）
コレクション計画における分類	導入種										
S（繁殖・導入優先）	アジアゾウ（3頭・3月・マレーシアより） アムールトラ（1頭・6月・王子動物園より）										
A（繁殖・導入推進）	ケープハイラックス（1頭・6月・京都市動物園より） レッサースローロリス（1頭・2月・千葉市動物公園より） フンボルトペンギン（4羽・11月・しまね海洋館アクアスより）										
B（繁殖可・現状維持）	カリガネ（2羽・9月・多摩動物公園より） ソデグロヅル（1羽・9月・多摩動物公園より）										
C	法人の自己評価	V	評価理由	コレクション計画カテゴリSのアジアゾウについて、平成26年の春子死亡以降、12年間にわたり国内外の様々な関係機関と粘り強く調整を重ねてきた結果、令和8年3月にマレーシアから3頭の導入を達成した。平成30年のラニー博子死亡以来不在となっていたゾウを、約8年ぶりに導入できたことは特筆すべき成果である。また、導入直後の公表によりSNS等で話題となるなど、園の魅力向上に大きく貢献したため。 同じくカテゴリSのアムールトラ、カテゴリAのケープハイラックスを導入し、いずれも約2年ぶりとなる展示再開を実現した。さらに、カテゴリAのフンボルトペンギンの入園により展示羽数を拡充した。							
	市の評価	V	評価理由	令和7年度は、アムールトラやケープハイラックス等、コレクション計画に基づく希少動物の導入を進めるとともに、長年にわたる国内外機関との調整を経て、令和8年3月にアジアゾウ3頭の導入を達成した。 平成30年のラニー博子死亡以降、ゾウ不在の状況が続き、来園者から展示を希望する声が多く寄せられていた。そうした中で今回3頭の導入を実現したことは、来園者の期待に応えるとともに、本園の展示・教育機能の充実に資する取組として高く評価できる。 また、導入にあたっては、国内最大級の放飼場を有するゾウ舎を整備するとともに、動物福祉と安全対策に配慮した準間接飼育を採用するなど、新たな取組にも着手した。 今後は、糞中ホルモン測定や行動調査等を活用した研究を推進し、得られた科学的知見を飼育管理の高度化や繁殖の推進に生かすことで、種の保存にも一層貢献することが期待される。							
	ヒアリング結果	既存種であるソデグロヅル、レッサースローロリス、フンボルトペンギンを追加導入するとともに、カリガネは2023年に展示していた最後の1羽が死亡して以来、約2年ぶりに導入した。さらに、約2年ぶりの展示再開となるアムールトラ・ケープハイラックスの導入や、8年ぶりとなるアジアゾウの導入を実現した。これらは、希少動物導入に向けた調整・交渉に計画以上に取り組んだ成果であり、計画以上の大きな成果があったと評価できる。									
A	次年度の年度計画	[1] コレクション計画に基づく動物の導入に向けて国内外他園等と調整を図る。									

評価シート（個票）

通し番号		2																										
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。																										
P	中期計画	第1-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。 また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。																										
	年度計画	JAZAの種別管理者、専門技術員及び部員としての受嘱を継続し、個体群管理計画に連携して取り組み、展示動物の充実へ繋がるよう取り組む。																										
	評価事例	Ⅲ	・種別管理者や専門技術員等を継続して受嘱した実績																									
		Ⅳ	・種別管理者や専門技術員等を新たに受嘱した実績 ・種別管理等の担当をすることで園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例																									
Ⅴ		・種別管理等の担当をすることで園の魅力向上に貢献できた事例																										
D	行動	JAZA（（公社）日本動物園水族館協会 総裁：秋篠宮皇嗣殿下）各委員会の専門技術員等について、令和6年度に引き続き、のべ11名が受嘱した。 ◆受嘱委員会及び受嘱者 <table border="0"> <tr> <td>①生物多様性委員会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>キリン専門技術員</td> <td>動物診療課職員</td> </tr> <tr> <td>ヨウスコウワニ種別管理者</td> <td>動物診療課職員</td> </tr> <tr> <td>ホッキョクグマ専門技術員</td> <td>動物診療課職員</td> </tr> <tr> <td>クロサイ専門技術員</td> <td>動物診療課職員</td> </tr> <tr> <td>シシオザル専門技術員</td> <td>飼育展示課職員</td> </tr> <tr> <td>マレーグマ計画推進会議専門技術員</td> <td>飼育展示課職員</td> </tr> <tr> <td>ニホンイヌワシ専門技術員</td> <td>飼育展示課職員</td> </tr> <tr> <td>フランソワルトン専門技術員</td> <td>飼育展示課職員</td> </tr> <tr> <td>②安全対策委員会 感染症対策部部員</td> <td>動物診療課職員</td> </tr> <tr> <td>③総務委員会 栄養部部員</td> <td>飼育展示課職員</td> </tr> <tr> <td>④教育普及委員会 学術研究部部員</td> <td>飼育展示課職員</td> </tr> </table> ◆会議出席状況 ・6月、マレーグマ計画推進会議に出席（2名） ・7月、キリン計画推進会議に出席（1名） ・9月、シシオザル計画推進会議に出席（1名） ・10月、学術研究部会議に出席（1名） ・11月、ニホンイヌワシ計画推進会議に出席（2名）令和7年3月に秋田市大森山動物園から譲り受けたニホンイヌワシの有精卵（2卵とも孵化し、うち1羽が成育中）について報告した。 ・12月、種保存会議にヨウスコウワニ種別管理者として出席（1名） ・12月、動物福祉評価委員として動物診療課員が近畿ブロックの園館を査察。後日動物福祉評価について評価後打合せ、JAZAに報告。			①生物多様性委員会		キリン専門技術員	動物診療課職員	ヨウスコウワニ種別管理者	動物診療課職員	ホッキョクグマ専門技術員	動物診療課職員	クロサイ専門技術員	動物診療課職員	シシオザル専門技術員	飼育展示課職員	マレーグマ計画推進会議専門技術員	飼育展示課職員	ニホンイヌワシ専門技術員	飼育展示課職員	フランソワルトン専門技術員	飼育展示課職員	②安全対策委員会 感染症対策部部員	動物診療課職員	③総務委員会 栄養部部員	飼育展示課職員	④教育普及委員会 学術研究部部員	飼育展示課職員
①生物多様性委員会																												
キリン専門技術員	動物診療課職員																											
ヨウスコウワニ種別管理者	動物診療課職員																											
ホッキョクグマ専門技術員	動物診療課職員																											
クロサイ専門技術員	動物診療課職員																											
シシオザル専門技術員	飼育展示課職員																											
マレーグマ計画推進会議専門技術員	飼育展示課職員																											
ニホンイヌワシ専門技術員	飼育展示課職員																											
フランソワルトン専門技術員	飼育展示課職員																											
②安全対策委員会 感染症対策部部員	動物診療課職員																											
③総務委員会 栄養部部員	飼育展示課職員																											
④教育普及委員会 学術研究部部員	飼育展示課職員																											
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	種別計画管理者及び専門技術員として8種の繁殖計画推進会議に参画するなど、引き続きJAZAへ貢献することで、園の信頼向上に寄与できたため。																								
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり																								
	ヒアリング結果	種別管理者の担当等を継続して受嘱し、各種活動・会議に参画することで、園の信頼向上につながった。また、11月には、令和6年度に実施したニホンイヌワシの有精卵移動について報告し、有精卵が無事に孵化・成育していることを発表した。これにより、取組の成果が対外的に示され、園の信頼向上に一層寄与したと評価できる。																										
A	次年度の年度計画	[2] J A Z A、W A Z A（世界動物園水族館協会）の各種研究会等へ積極的に参加し、得られた情報を速やかに共有し、飼育技術向上を図る。																										

評価シート（個票）

通し番号		3		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。		
P	中期計画	第1-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。 また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。		
	年度計画	JAZA、WAZAの各種研究会等へ積極的に参加し、得られた情報を速やかに共有し、飼育技術向上を図る。		
	評価事例	Ⅲ	・研究会等へ参加し得られた情報を共有することで飼育技術の向上や動物のQOL向上、体調の良化につながった実績。 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・研究会等で得られた知識により飼育技術が向上し園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例	
Ⅴ		・研究会等で得られた知識により飼育技術が向上しはるかに園の魅力向上に貢献できた事例		
D	行動	年間を通じて、JAZAの研究会等に積極的に参加し、飼育技術の向上に資するため、他園館の取組や飼育管理に関する最新情報の収集に努めた。また、会議・研修会等への参加後は、復命書や資料を共有フォルダに保存し、動物飼育専門員および獣医師に共有するとともに、各班ミーティングにおいて報告・共有を行った。 ◆研究会等への出席：計32件、のべ58名 ◆主な参加研究会・得られた情報等 ・5月、JAZA通常総会：「JAZA将来構想2025」（4つの目標・15のアクション）策定。7月に、園長が一般来園者対象に「JAZA将来構想2025」について講演を行った。 ・5月、日本護蹄研修会：キリンの削蹄講習に参加し、当園でのキリンの蹄ケアの改善や動物福祉の向上に資する知見を得た。 ・6月、近畿ブロック動物園飼育係研修会：インドの国立公園でのアジアゾウ飼育研修報告があり、アジアゾウの飼育管理について知見を得た。 ・7月、第8回野生動物保全繁殖研究会大会（7/23～7/24）をホストとして開催した（参加者118名）。実行委員会メンバーとして、大会長（園長）を始めとして実行委員長および実行委員として12名が運営に携わった。 ・10月、ホッキョクグマ計画推進会議：ホッキョクグマは脂肪を中心とした食性であることが明らかとなり、これを踏まえ、給餌内容の見直し（タンパク質比率の低減、脂肪比率の増加）に関する知見を得た。 ・10月、環境省主催「動物園等における高病原性鳥インフルエンザ対応のための現地実務講習会」を本園を会場として開催し、全国から動物園関係者や地方自治体職員等47名、環境省等関係者14名を受け入れた。講習会では、高病原性鳥インフルエンザ対策に関する実地演習を行うとともに、鳥類飼育施設における防疫体制についての解説・指導を実施した。 ・11月、日本動物園水族館両生類爬虫類会議：トカゲ類に対するターゲットトレーニングを用いた飼育管理についての知見を得た。 ・11月、海獣技術者研究会：水族館からの報告により、動物園では実施例の少ない、交配を目的とした短期ブリーディングローンに関する知見を得た。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	研究会等へ参加し得られた情報を共有することにより、職員の知識向上と動物福祉の向上を図ることができたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	野生動物保全繁殖研究会をホストとして開催したことで、多くの職員が関与し、知見や情報を獲得する機会となった。また、各種研究会等へも積極的に参加し、得られた知識・情報を担当内で共有することで飼育技術の向上に取り組んでいることから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[2] J A Z A、W A Z A（世界動物園水族館協会）の各種研究会等へ積極的に参加し、得られた情報を速やかに共有し、飼育技術向上を図る。		

評価シート（個票）

通し番号		4		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 園内で楽しむ・学ぶ、双方の観点から、企業、近隣施設、NPO法人、教育機関等とも連携しつつ、多様なイベントを企画・実施する。		
P	中期計画	第1-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 誘客面やリピーター増加に加え教育効果の観点からも、これまで実施してきたイベントの内容・時間・連携先などを検証のうえ、イベント企画実施にかかる指針を策定し、魅力的・効果的なイベントを企画・実施する。		
	年度計画	これまでのイベントの検証結果を踏まえ、今後のイベントのさらなる魅力向上（学習効果・集客力・リピーター増）に繋げる。また、110周年イベントを引き続き実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・イベントの実施（110周年イベント含む）およびアンケートでのリピーター項目の高評価	
		Ⅳ	・検証結果を次期イベントに反映したことによる集客増やアンケートでの高評価 ・各イベントを実施したことによる園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例	
Ⅴ		・各イベントを実施したことによる園の魅力向上にはるかに貢献できた事例		
D	行動	【イベントの検証】 ・前回のイベント結果を基に内容や実施方法を改善し、各イベントにて、アンケートのリピーター項目、満足度等が60%以上となった。 特にホッキョクグマのイベントでは、相席制の導入による参加人数を増やす、ホッキョクグマ柄の保冷剤配布による暑さ対策やイベント終了後に一般のお客様も観覧できるようスペース確保のアナウンスをする等、改善を行うことによりアンケートでの満足度がアップした。また、アンケートのQRコードを1組1枚から、1人1枚配付に変更することで、アンケート回答数も増加した。 満足度（アンケート回答数） 令和6年度：氷柱 84.6%（26）、お魚 93.7%（16）、誕生日 85.7%（14） 令和7年度：氷柱 100%（47）、お魚 97.1%（35）、誕生日 94.9%（39） ・イベント内容、学習効果、行動変容、リピーター意欲等、同じ情報を各イベントで統一して取得できるよう、アンケートのひな形を作成した。 ・次年度の改善につなげるため、各イベントで取得したアンケートのうち、良い点や改善点のデータを集計し、他イベントの改善に活かすための資料を作成し、今後イベント担当者へ共有することとした。 【イベント実施結果】 ＜通常イベント＞ 4月 おはなしえん 110周年記念バージョン 6月 カバのテツオ君と歯みがき教室&スタンプラリー、大阪税関コラボイベント「まもろう！地球の仲間たち ～密輸から生き物たちをすくえ！～」 7月 みんなの願いよ届け！どうぶつを知って守ろうスペシャルイベント、こどもの美術展「わたしの見つけた天王寺動物園のすてき」、おはなしえん 110周年記念バージョン、イベント「ホッキョクグマに氷柱プレゼントイベント、エリアプロモーション「サンク's りぼ～ん」 8月 ナイトZOO、ホッキョクグマにお魚プレゼントイベント、「学んで作れる！アニマルスノードーム」 9月 ナイトZOO、動物感謝祭 10月 天王寺動物園×長居植物園「動物と植物のつながり」図鑑づくりスタンプラリー、防犯・交通安全フェスティバル in 天王寺動物園 ～安心・安全・天王寺～ 11月 ラブライブAR周遊イベント、明治安田生命Presents 明治安田生命×天王寺動物園 みんなの健活クイズラリー、天王寺動物園で学ぶSDGzoo～みらいを紡ぐ仲間たち～、ホッキョクグマ誕生日イベント、丸紅「みらいキッズフットプロジェクト」、おはなしえん 110周年記念バージョン 12月 ディズニー映画最新作『ズートピア2』公開記念 南海電鉄スタンプラリー、学んで作れる！アニマルクリスマスリース 1月 福笹プレゼントイベント、さむ～い日にまなぶ「キコウヘンドウ」 ―地球の未来をまもるACTIONをかんがえよう― 2月 LEGO®アニマルアドベンチャー、巡って、買って、遊んで、大満足！！天王寺満喫スタンプラリー、はみがきうさぎのカムカムどうぶつえんフェスタinてんのうじどうぶつえん 3月 天王寺動物園で学ぼう！子どものぼうはん、『てんのうじどうぶつえんのZOOっとテレビ』presents 第2回 ZOOっとテレビまつり、ドリームデイ・アット・ザ・ズー ＜110周年関連イベント＞ ○イベントスケジュール 4月 こどもユニフォーム撮影会 6月 初夏のモーニング・ズー、防犯・交通安全 天王寺動物園110周年コラボフェスティバル 7月 天王寺動物園110周年記念スタンプラリー 8月 こどもユニフォーム撮影会、110の王決定戦 9月 来園者110万人目セレモニー、110周年記念似顔絵イベント 10月 秋のモーニング・ズー		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	・ホッキョクグマイベントにおいて、これまでのイベントの検証やアンケート結果の分析をもとに、相席制の導入による参加人数増加、ホッキョクグマ柄の保冷剤配布による暑さ対策、イベント終了後速やかに参加者以外のお客様が観覧できるようスペース確保のアナウンス実施等、様々な改善を行った結果、アンケートでの満足度がアップした。 ・110周年イベントとして、新企画の内容をはじめとする様々なイベントを多数実施した。 ・各イベントのアンケート結果について、満足度およびリピーター希望率が90%を超える高評価のものが多く、園の魅力向上に繋がったため。
	市の評価	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおりに
	ヒアリング結果	既存イベントに加え、110周年を記念する新規イベントを多数実施するなど、園の魅力向上に積極的に取り組んだ。特にモーニングズーの開催により、普段は見ることのできない動物の様子を観察できる機会を来園者に提供できた。また、既存イベントについても参加者アンケートの意見を踏まえて改善を行った結果、満足度の向上が確認されており、計画以上の成果があったと評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔3〕これまでのイベントを継続するだけでなく、企業と連携した新たなイベントを実施するとともに、動物園を知らない・興味がない層にも参加してもらえるような親しみやすいイベント内容を取り入れ、新たな客層へのアプローチを強化する。アンケートは、項目の好意的・肯定的な評価の年間平均80%以上を目標とする。		

評価シート（個票）

5

通し番号		5			
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。			
		第2-1-（2） 魅力的なイベントの企画・実施 園内で楽しむ・学ぶ、双方の観点から、企業、近隣施設、NPO法人、教育機関等とも連携しつつ、多様なイベントを企画・実施する。			
P	中期計画	第1-1-（2） 魅力的なイベントの企画・実施 誘客面やリピーター増加に加え教育効果の観点からも、これまで実施してきたイベントの内容・時間・連携先などを検証のうえ、イベント企画実施にかかる指針を策定し、魅力的・効果的なイベントを企画・実施する。			
	年度計画	継続してファンクラブ募集に取り組むほか、法人ファンクラブについては営業戦略に基づく渉外営業を実施し、全体として前年度を超える会員数を目標とする。			
	評価事例	Ⅲ	・営業戦略に基づく渉外営業の実施 ・継続してファンクラブ募集に取り組み、前年度以上の会員数（ブチは口数）を獲得（指標：前年度と同水準以上）		
		Ⅳ	・営業戦略に基づく渉外営業や新たな取組を行いかつその取組によって生じた新規加入者数、リピーター数のあきらかな上昇		
		Ⅴ	・営業戦略に基づく渉外営業や新たな取組を行いかつその取組によって生じた新規加入者数、リピーター数ののはらかな上昇		
D	行動	【ファンクラブ関連取り組み】 4月～ ・ファンクラブプレミアム会員特典の変更：限定動画配信（年4回）から限定動画配信（年2回）と限定画像ダウンロード配信（年2回）に変更 ・ファンクラブスマート会員特典の変更：限定動画配信（年2回）から限定画像ダウンロード配信（年1回）と限定動画配信（年1回）に変更 ★年間パスポート2割引の開始 ・ファンクラブブチ特典の変更：オリジナル動物カードからアンケートで希望が多く、実施時に口数が多かったオリジナル缶バッジに変更 4月 プレミアム・スマート 限定画像ダウンロード配信 4月～6月 ブチ「はるまつり」缶バッジを実施 6月 ブチ「ファンクラブ会員が選んだ動物」缶バッジを実施 6月12日～ ブチ特典連動の「ガチャ付き入園券」販売を開始 7月 プレミアム 飼育員による解説付き「バックヤード動画」を制作・配信 7月～9月 ブチ「なつまつり」缶バッジを実施 7月～ ★ブチの紹介コーナーを入園ゲートに設置 8月 ブチ「アムールトラ入園記念」缶バッジを実施 8～9月 （ナイトZOO開催日のみ）ブチ「ナイトZOO」缶バッジを実施 8月～ ★ガチャ付き入園券との連動（購入者にファンクラブチラシを配布し、プレミアム・スマート会員の新規獲得の導線として活用） 8月7日～ ★園内放送で1日3回ファンクラブ制度案内やファンクラブブチの実施中デザイン案内を放映 8月21日～ ・会員限定イベントバックヤードツアーの申込を案内 ・締切日までに新規加入したプレミアム会員も参加可能とHPにてお知らせを公表（期間内にプレミアム26名・スマート7名新規加入） 9月 ★プレミアム ナイトZOOバックヤード見学会（抽選制）を実施 9月23日～10月 ブチ「動物感謝祭」缶バッジを実施 10～12月 ブチ「あきまつり」缶バッジを実施 10～12月 （全8回）プレミアム会員限定バックヤードツアーを実施 12月 ブチ「復刻！」動物カードを実施 1～3月 ファンクラブブチ「ふゆまつり」缶バッジを実施 2月 ファンクラブブチ「国際ホッキョクグマの日」缶バッジを実施 2月～ ★Instagramでファンクラブブチ紹介ストーリーを投稿 ★ブチ 新ガチャマシン使用開始 <随時> ファンクラブ未加入の寄附者、イベント参加者等にファンクラブ加入を案内 【営業関連取り組み】 7月 営業戦略を策定 7月以降 営業を実施 ★地域企業や、環境保護（CSR）に力を入れている企業を中心に、ダイレクトメール等により営業（10月～1月はクラウドファンディングに絞って営業を実施していたため、新規の営業は実施なし） ・イベント共催、協賛企業には、法人ファンクラブのチラシ等を配布・説明し、加入していただけるよう営業を実施した。 ★令和7年度からの実施分 ◆ファンクラブ会員数比較表			
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	特典内容を会員ニーズに合わせて改善し、ブチ会員には缶バッジ企画で口数拡大に繋がった。また、園内放送・ゲート掲出・SNS活用で認知を強化したことにより新規加入者がプレミアム200名（前年度比119%）、スマート71名（前年度比124.6%）増加したため。	
	市の評価	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり	
	ヒアリング結果	ファンクラブ特典の見直しを行うとともに、アンケートで要望の多かった缶バッジ企画を中心に取組を拡充した。さらに6月には、ブチ特典と連動したガチャ付き入園券の販売を開始するなど新たな施策にも取り組んだ。その結果、ブチを中心に会員数は大幅に増加しており、計画以上の成果があったと評価できる。			
A	次年度の年度計画	[4]ファンクラブ会員特典の見直しや新規特典や限定イベントの企画により制度の魅力向上を図るとともに、園内外での加入促進やSNSを活用した情報発信を強化し、新規会員の獲得につなげる。 また、更新特典の充実等により継続率の維持・向上にも取り組み、全体として前年度を超える会員数の確保を目指す。			

評価シート（個票）

通し番号		6																																											
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-（3） 積極的な情報発信 天王寺動物園の取組内容や飼育動物の状況について、各種メディアを通じた情報発信のほか、ホームページやSNSを利用して自らが情報発信の主体となる等、ターゲットに応じて媒体を使い分け、積極的かつタイムリーな情報発信を行う。																																											
P	中期計画	第1-1-（3） 積極的な情報発信 ホームページ、各種SNS等を活用して、ターゲットや目的を明確にしたうえで効果的でタイムリーな情報発信を行うことにより、誘客に加え、動物の生態、生物多様性等の保全に関する理解にも繋げる。 また、各種メディアからの取材、番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、メディアへの継続的な情報提供を行う。																																											
	年度計画	ホームページの充実、番組企画やロケーションの積極的な受け入れを行い生物多様性の保全に関する理解に繋げるとともに、HP・SNSの閲覧実績やコメントの内容等を分析し、ニーズに合った情報発信を行う。																																											
	評価事例	Ⅲ	・生物多様性保全に関する情報等、継続した情報発信（多言語HPを含む） ・データ（HP・SNSの閲覧実績やコメントの内容等）を分析し、必要に応じた広報戦略の見直し																																										
		Ⅳ	・生物多様性保全に関する情報等、継続した情報発信によって、園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例																																										
Ⅴ		・生物多様性保全に関する情報等、継続した情報発信によって、園の魅力向上にはるかに貢献できた事例																																											
D	行動	○番組企画やロケーションの受け入れ 4～6月：17件 7～9月：24件 10～12月：12件 1～3月：13件 【主な受入番組】 ・ABCテレビ「本日はダイアンなり」 →園長によるクイズを交えた園内ガイド ・読売テレビ「すまたん（あにまるウォッチ）」 →日替わりで動物の魅力紹介 ・NHK Eテレ「ウィランの言い分」★反響良 →チュウゴクオオカミの遠吠えに関する特集 ・NHK Eテレ「ピタゴラスイッチ」 →アルゴリズムたいそうの出演 ○6月～ 月初めにInstagramにて営業日についてお知らせ ○8月～ Instagramのトップページの変更 ・自己紹介文を更新 ・ストーリーズハイライトの管理 （掲載情報の選択。終了したイベントや死亡した個体の情報を削除。営業カレンダーやお知らせ等タイムリーな情報のみ随時掲載） ○イベント時のSNS投稿 目に留まりやすい写真をトップかつ絵文字や投稿文字数の工夫。 例）8月ナイト200投稿：閲覧数12万回のうちフォロワー以外の閲覧が65%（Instagram） →フォロワー以外にも広く周知。 ○Instagramの投稿数とフォロワー増加人数に基づく実績の検証 令和6年度 4～3月 投稿数 121 フォロワー増加人数 4710人 令和7年度 4～3月 投稿数 353 フォロワー増加人数 12045人 フォロワー増加人数については、前年対比約255%達成。 ○ホームページ更新による内容と精度の充実 1月 動物図鑑 動物26種の説明文のボリュームを大幅に増やし、より詳細に伝えられるよう更新（英中韓含む） 3月 中国語・英語の入園料、開園時間、休園日の説明文を更新 <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <caption>◆情報発信件数比較</caption> <thead> <tr> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,481</td> <td>1,774</td> <td>1,348</td> <td>1,877</td> <td>2,479</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>SNSフォロワー数比較表</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>X</td> <td>9,613</td> <td>15,468</td> <td>20,531</td> <td>25,849</td> <td>31,469</td> </tr> <tr> <td>Instagram</td> <td>42,307</td> <td>47,190</td> <td>52,800</td> <td>58,725</td> <td>70,770</td> </tr> <tr> <td>You Tube</td> <td>17,002</td> <td>18,951</td> <td>20,784</td> <td>21,812</td> <td>23,374</td> </tr> <tr> <td>Facebook</td> <td>26,453</td> <td>27,266</td> <td>27,395</td> <td>27,379</td> <td>27,597</td> </tr> </tbody> </table>				R3	R4	R5	R6	R7	1,481	1,774	1,348	1,877	2,479		R3	R4	R5	R6	R7	X	9,613	15,468	20,531	25,849	31,469	Instagram	42,307	47,190	52,800	58,725	70,770	You Tube	17,002	18,951	20,784	21,812	23,374	Facebook	26,453	27,266	27,395	27,379	27,597
R3	R4	R5	R6	R7																																									
1,481	1,774	1,348	1,877	2,479																																									
	R3	R4	R5	R6	R7																																								
X	9,613	15,468	20,531	25,849	31,469																																								
Instagram	42,307	47,190	52,800	58,725	70,770																																								
You Tube	17,002	18,951	20,784	21,812	23,374																																								
Facebook	26,453	27,266	27,395	27,379	27,597																																								
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	継続して積極的な番組企画の受け入れを行うとともに、SNSによる番組宣伝やお客様目線の情報発信、ホームページの更新を行ったため。																																									
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり																																									
	ヒアリング結果	番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、ホームページの更新やSNS発信などにより、効果的かつタイムリーな情報発信に取り組んでいる。 今後も情報発信を継続しつつ閲覧実績を分析し、発信内容の改善に活かすことで、より一層の園の魅力向上につなげられたい。																																											
A	次年度の年度計画	〔5〕SNS発信においては、動物情報やイベント情報のみに偏ることなく、HPと連携させながら、園のサービスや取組等幅広い内容を分かりやすく提供し、効果測定を行う。また、メディアからの取材を引き続き積極的に受け入れることで、内部・外部の両面から持続的な発信を行い、幅広い層からの関心を高める。																																											

評価シート（個票）

通し番号		7		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	引き続き、ホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づく取組（研修、研修効果定着のための取組など、研修効果チェック）を体系的に実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・アンケートによる来園者の満足度 ・方針に基づく研修実施とボランティアによる効果チェック等の実施 （指標：前年度と同水準）	
D	行動	Ⅳ	・前年度を超える来園者の満足度（原因分析含む）のあきらかな上昇	
		Ⅴ	・前年度を超える来園者の満足度（原因分析含む）のはるかな上昇	
		4～6月 昨年度までのホスピタリティマインド醸成研修の振返り 6月 新規職員向けホスピタリティマインド醸成研修の実施 7～8月 効果検証方法の検討 お客様満足度アンケートでスタッフの対応に満足した方は、66%（令和5年度）→70%（令和6年度）と昨年度は上昇した。しかし、笑顔や挨拶がない等の不満の声を現在もいただいている。そのため、昨年度は当園のボランティアに調査を依頼していたが、今年度はホスピタリティ研修等を実施している専門家による覆面調査を実施し、より明確に現状を把握しホスピタリティマインドの定着度と今までの研修効果を確認する 9月 業者の選定 10月 業者決定に際し、覆面調査時期の検討 11月 ホスピタリティ研修等を実施している専門家による覆面調査でのホスピタリティマインド研修効果チェックを実施 12月 11月に実施した覆面調査結果の分析と今後の研修方法や内容等を検討 結果に基づいた研修方法や内容等を策定 2月 ホスピタリティマインド醸成研修の実施 2～3月 研修効果の分析		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	これまでのホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づいた研修により、お客様満足度アンケートでスタッフの対応に満足したお客様の上昇及びボランティアによる効果チェックに代わり、覆面調査員による効果チェックを実施し、その結果を踏まえてホスピタリティマインド研修を実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	従来のホスピタリティマインド醸成研修の効果検証のため、令和7年度から新たに専門家によるお客様満足度調査を実施した結果、一定定着していることが確認できたため。また、さらなる満足度上昇を目指し、当該調査で判明した要改善事項を、以後の研修に反映し実施したため。
	ヒアリング結果	研修効果をより精緻に把握するため、専門家による覆面調査を実施するなど新たな取組を行った。その結果、令和7年度においても、スタッフの対応に「満足した」と回答した方の割合は70%に達し、令和6年度と同等の効果が得られていることを確認できたことから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔6〕ホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づく取組（研修等）を実施する。また、研修後は調査員による覆面調査を実施し、効果や改善点を明確化し周知、改善に取り組む。研修後の効果検証において、調査員による覆面調査で好意的な評価80%以上を目標とする。		

評価シート（個票）

通し番号		8		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	定期点検に加え、職員による日常点検や来園者の声等を踏まえた美観保持に取り組む。		
	評価事例	Ⅲ	・職員による点検の継続実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・職員による継続した点検により新たに快適な園内環境の創出にあきらかに貢献できた事例	
		Ⅴ	・職員による継続した点検により新たに快適な園内環境の創出にはるかに貢献できた事例	
D	行動	6～7月 前回分の指摘箇所について改善されているか調査実施 7月 園内巡視を実施し改善未実施箇所の周知 8～9月 新たな改善部分の提案、前回分の未実施箇所を改善 10～12月 園内巡視結果に伴う改修箇所の報告・改修の実施 1月 園内巡視を実施し新たな改善部分の提案、改善未実施箇所の報告 随時 美観保持のための点検、改善 園内巡視による令和7年度実施修繕箇所 4箇所 改善内容 ・カバブロンズ像屋根張替 ・猛禽舎金網補修 ・アシカワーフ水中ガラス注意サインの取り付け（内容例：ガラスを触らないでください） ・クマ舎前除草対策 来園者の声による改善内容 19箇所 主な改善内容 ・ふれんどしっぷガーデン写真映り込み注意サインの掲示 ・てんしばゲート案内表示 ・マレーグマエンリッチメント推進 ・FooZoo内授乳室の利用変更 ・園内プラスチックフェンスの仕様変更 ・車いすの更新 ・ホッキョクグマ舎前の暑さ対策 ・アイファア案内掲示の更新 ・鳥の楽園説明サインの更新 ・旧ペンギン舎などの案内サインの更新 ・工事エリアの工事内容の説明サインの掲示 ・夜行性動物舎説明サインの更新 ・ベンチの増設 ・カバブロンズ像のスポットの更新 ・動物慰霊碑案内サインの設置 ・禁止サインの追加		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	職員による点検の継続実施及び来園者の声を分析し、美観保持や改善に反映できたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	来園者から各獣舎への案内サインの老朽化等に対する改善要望が寄せられたため、随時修繕・更新を実施した。また、美観保持のための園内巡視もあわせて実施し、補修等を実施した。その結果、快適な観覧環境の保持に寄与できていることから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔7〕 定期点検に加え、職員による日常点検、目的毎に掲示物の統一化、来園者の声等を踏まえた美観保持に取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		9		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	「園内掲示物整備アクションプログラム」に基づく園内掲示物の点検及び更新を行うほか、リニューアル獣舎についても統一感のある掲示物を作成する。		
	評価事例	Ⅲ	・ アンケートでの高評価 ・ 園内掲示物の点検、更新及び作成の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・ 園内掲示物の点検、更新及び作成を行ったことにより新たに快適な園内環境の創出にあきらかに貢献できた事例	
		Ⅴ	・ 園内掲示物の点検、更新及び作成を行ったことにより新たに快適な園内環境の創出にはるかに貢献できた事例	
D	行動	【随時】 点検を実施し、風雨による劣化や手書き、日本語のみ、内容にそぐわない（現在飼育していない動物のイラスト、コロナ時の案内、設置場所など）掲示物を適宜更新した。 ・ お客様満足度アンケート結果において質問項目「動物園内の園内地図、案内板、ポスターなどの掲示物について満足されましたか？」で、満足・やや満足が91%と前年度と同様の結果となった。 ・ お客様満足度アンケートはお客様に対しホームページ内から回答できるようにしており、月に1度（月初め）集計している。 ・ リニューアル工事において、サイン会議に参加し、案内サイン、動物説明サイン、注意サインなど統一感のあるように作成している。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	園内掲示物の点検、更新及び作成を実施するとともに、お客様満足度アンケートでやや満足以上が90%以上と高評価を得たため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	園内掲示物整備アクションプログラムに基づく取組を続けたことで、計画を達成したと評価できる。 また、来園者の声を踏まえ、獣舎整備中には工事内容を案内するデジタルサインエージを設置するなど、利便性向上に向けた改善にも努めた。		
A	次年度の年度計画	[8] 「園内掲示物整備アクションプログラム」に基づく園内掲示物の点検及び更新を行うほか、4か国語（日英中韓）表記の掲示と目的毎に掲示物の統一化に取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		10		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	令和7年度完成予定の施設（ホッキョクグマ舎、アジアの森）について、ユニバーサルな観覧環境に配慮した整備を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ユニバーサルな観覧環境に配慮した施設整備の着実な実施	
		Ⅳ	・予算の範囲内で、当初計画以上のユニバーサルデザインを採用し快適な園内環境の創出にあきらかに貢献できるといえる場合	
		Ⅴ	・予算の範囲内で、当初計画以上のユニバーサルデザインを採用し快適な園内環境の創出にはるかに貢献できるといえる場合	
D	行動	【第1四半期】 （1）ユニバーサルな観覧環境に配慮した施設とするため、施工業者から提出される施工図の内容が必要となる品質を満たしているかどうかを確認した。各種会議にて、高低差、スロープ、手摺設置等の詳細を確認した。サイン会議にて、多言語表記（日英中韓の4言語）に加え、エレベータ案内サインでは見やすく認識しやすいピクトグラム（絵文字）を採用するようにした。 【第2四半期】 （1）第1四半期同様、施工図にて必要となる品質を満たしているかどうか、各種会議にて、高低差、スロープ、手摺設置等の詳細を確認した。サイン会議にて多言語表記、エレベータ案内サインのほか、注意サインやゾウさんバギー置場にもピクトグラム（絵文字）を採用するようにした。 【第3四半期】 （1）上記同様、施工図にて必要となる品質を満たしているかどうか、各種会議にて詳細を確認し、施工済みの箇所について現地で確認した。 【第4四半期】 （1）上記同様、竣工図と完成した現地において、必要となる品質を満たしていることを確認した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	ユニバーサルな観覧環境に配慮した施設整備を実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	適宜業者と調整を図りながら新獣舎を整備した結果、ユニバーサルな観覧環境に配慮した整備が完了したことから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[9] 樹上の森・休憩エリアの設計修正において、法令等を確認しユニバーサルな環境や快適性に配慮した内容に修正する。		

評価シート（個票）

通し番号		11																																																																																																														
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-（4） 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。																																																																																																														
P	中期計画	第1-1-（4） 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。																																																																																																														
	年度計画	来園者の声を分析し園運営の改善に取り組む。（HP・SNS含む。）																																																																																																														
	評価事例	Ⅲ	・来園者の声を分析し園運営を改善																																																																																																													
		Ⅳ	・園運営を改善したことによって、園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例																																																																																																													
		Ⅴ	・園運営を改善したことによって、園の魅力向上にはるかに貢献できた事例																																																																																																													
D	行動	5月 110周年を記念して新たに掲載を開始した、広告の効果をより明確に把握するため、広告に関する選択肢を追加（日本語のみ） 5月 例年半数以上の回答が5回以上来園したことのある方だが、当園から声掛けをすることにより、来園回数が少ない方の声を反映しやすくするため、ボランティアクラブ1915の方にご協力いただき、月に1度声掛けによる園内でのアンケート調査を開始 7・9月 ホームページのお客様満足度アンケートの改善事例ページを更新 今年度よりホームページに改善事例やアンケートに関するお知らせ（X、Facebook連動）を随時掲載し、お客様に取り組みを周知 その結果、回答率が7月掲載前3日間平均（0.3）と比べ掲載後3日間平均（3.6）の12倍 9月掲載前3日間平均（0.6）と比べ掲載後3日間平均（3.3）の5.5倍と多くの意見を集めた ※掲載日を基準に前後3日間の数値（休園日を除く） 11月 ホームページのお客様満足度アンケートの改善事例ページを更新及び ホームページに改善事例やアンケートに関するお知らせ（X、Facebook連動）を掲載 その結果、回答率が掲載前3日間平均（1.6）と比べ掲載後3日間平均（3）の1.9倍と多くの意見を集めた 2月 ホームページのお客様満足度アンケートの改善事例ページを更新及び ホームページに改善事例やアンケートに関するお知らせ（X、Facebook連動）を掲載 その結果、回答率が掲載前3日間平均（1.3）と比べ掲載後3日間平均（7.3）の5.6倍と多くの意見を集めた ※掲載日を基準に前後3日間の数値（休園日、声掛けによるアンケート収集日を除く） 随時 劣化したアンケートに関する掲示物の更新及び月に1度職員にアンケート結果の周知 <table border="1"> <caption>令和7年度お客様満足度アンケート収集数</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6日本語</td> <td>327</td> <td>54</td> <td>37</td> <td>51</td> <td>47</td> <td>48</td> <td>55</td> <td>65</td> <td>90</td> <td>58</td> <td>44</td> <td>78</td> <td>954</td> </tr> <tr> <td>R6外国語</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>6</td> <td>47</td> <td>25</td> <td>18</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>22</td> <td>31</td> <td>11</td> <td>32</td> <td>222</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>327</td> <td>54</td> <td>43</td> <td>98</td> <td>72</td> <td>66</td> <td>72</td> <td>78</td> <td>112</td> <td>89</td> <td>55</td> <td>110</td> <td>1176</td> </tr> <tr> <td>R7日本語</td> <td>46</td> <td>88</td> <td>64</td> <td>59</td> <td>83</td> <td>93</td> <td>86</td> <td>95</td> <td>76</td> <td>53</td> <td>100</td> <td>89</td> <td>932</td> </tr> <tr> <td>R7外国語</td> <td>32</td> <td>30</td> <td>19</td> <td>15</td> <td>24</td> <td>12</td> <td>23</td> <td>21</td> <td>19</td> <td>21</td> <td>30</td> <td>15</td> <td>261</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>78</td> <td>118</td> <td>83</td> <td>74</td> <td>107</td> <td>105</td> <td>109</td> <td>116</td> <td>95</td> <td>74</td> <td>130</td> <td>104</td> <td>1193</td> </tr> </tbody> </table> ※昨年度4月は学校行事で来園した専門学校の方の来園時の回答が多かったが、今年度はなかった ※改善内容は個票8に記載														4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R6日本語	327	54	37	51	47	48	55	65	90	58	44	78	954	R6外国語	-	-	6	47	25	18	17	13	22	31	11	32	222	合計	327	54	43	98	72	66	72	78	112	89	55	110	1176	R7日本語	46	88	64	59	83	93	86	95	76	53	100	89	932	R7外国語	32	30	19	15	24	12	23	21	19	21	30	15	261	合計	78	118	83	74	107	105	109	116	95	74	130	104	1193
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計																																																																																																			
R6日本語	327	54	37	51	47	48	55	65	90	58	44	78	954																																																																																																			
R6外国語	-	-	6	47	25	18	17	13	22	31	11	32	222																																																																																																			
合計	327	54	43	98	72	66	72	78	112	89	55	110	1176																																																																																																			
R7日本語	46	88	64	59	83	93	86	95	76	53	100	89	932																																																																																																			
R7外国語	32	30	19	15	24	12	23	21	19	21	30	15	261																																																																																																			
合計	78	118	83	74	107	105	109	116	95	74	130	104	1193																																																																																																			
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	アンケートを通じて来園者の声を聞き取り分析することで、掲示物の更新や新たな動物舎での掲示を実施するなど、園運営を改善することができたため。																																																																																																												
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり																																																																																																												
	ヒアリング結果	園内でボランティアの協力を得て、声かけによる新たなアンケート回収を開始したことで、幅広い客層からの意見収集が可能となった。また、来園者の意見を踏まえた改善事例をホームページに掲載開始することで、計画を達成したと評価できる。																																																																																																														
A	次年度の年度計画	〔10〕来園者の声を分析し園運営の改善に取り組む。（HP・SNS含む。） また、改善や取組を来園者に発信する。																																																																																																														

評価シート（個票）

通し番号		12		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	大阪・関西万博の広報に協力するとともに、万博開催を機に当園に訪れた国内外のお客様に対する「おもてなし」を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・大阪・関西万博の広報協力 ・国内外の来園者に対する新たなサービスの実施	
		Ⅳ	・新たなサービスにより、来園者の満足度向上にあきらかに貢献できた事例	
Ⅴ		・新たなサービスにより、来園者の満足度向上にはるかに貢献できた事例		
D	行動	【おもてなし】 ①QRトランスレーター  令和7年4月8日運用開始（利用実績15,369件）※令和8年3月31日まで パネルのQRコードをスマートフォンで読み取ると、スマートフォンの言語に応じて音声ガイドが流れる。（15言語に対応） ②インフォメーションセンター  令和7年4月13日（大阪関西万博の開催日）運用開始 （利用実績7,748件）※令和7年10月13日まで 同日、万博チケット提示割引運用開始 （利用実績40,907件＜有料入園者の14.2%＞）※令和7年10月13日まで 大阪・関西万博の印刷物も設置し広報に協力。 【万博広報】 ①鳥のセカイ前休憩広場  令和7年6月3日開設。大阪関西万博の横断幕、ポスターを設置し会場までのアクセスの案内を掲示し広報に協力。 ②天王寺動物園110周年記念スタンプラリー  令和7年7月28日より実施。スタンプラリー台紙にミャクミャクを掲載し、大阪関西万博の広報に協力。 ミャクミャクが掲載された1万枚（当初）のスタンプラリー台紙がなくなる。 1万枚追加し合計2万枚 ※令和7年8月31日まで ③大阪関西万博のパンフレットの配布  令和7年9月13日 大阪関西万博デザインのクリアファイルへ 万博のパンフレット（日本語版・英語版）をゲートへ設置し広報に協力。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	様々な取組を実施することで、万博の広報や国内外からの来園者サービスに十分寄与できた。特にスタンプラリーについては好評で、ミャクミャクが掲載された台紙の追加発注に至った。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	大阪・関西万博の広報協力として新たに6つの取組を実施し、国内外の来園者サービス向上に寄与したことから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔11〕 イベント等の参加者に対する行動変容に関する事後調査を年に1回以上行う。 アンケート結果を検証し、より行動変容につながる教育活動となるよう必要に応じて改善する。		

評価シート（個票）

通し番号		13		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-2-(1) 間近で動物を感じる機会の提供 飼育動物の展示、「ごはんタイム・おやつタイム」の実施、餌やり体験や「ふれあい広場」の運営等を通じ、リアルな動物を見る、声を聴く、においを感じる等の生きている証に出会う機会を提供する。		
P	中期計画	第1-2-(1) 間近で動物を感じる機会の提供 ごはんタイム・おやつタイムの実施や動物への餌やり体験等、新たなふれあい広場の運営を通じ、来園者が間近を感じる機会を提供する。 また、お客様のニーズや満足度を把握する等、展示効果の検証を行いつつ、間近で行動的な動物が見られる展示となるような取り組みを進める。		
	年度計画	おやつ・ごはんタイムの内容について再検討し、動物の生態等に関する理解や関心を深めてもらえるよう改善する。		
	評価事例	Ⅲ	・アンケート結果等から、動物の生態等に関する理解や関心を深めることに繋がったことが確認できた事例 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・教育的イベント実施により、教育普及活動にあきらかに貢献した事例	
Ⅴ		・教育的イベント実施により、教育普及活動にはるかに貢献した事例		
D	行動	・サバンナ草食ゾーン、オオカミ舎、猛禽舎において「おやつタイム」に関するアンケートを実施し、現在集計中である。また、新たに導入したトラにおいても、おやつタイムを開始した（トラについてはアンケートは未実施）。 ・現状の実施内容として、サバンナ草食ゾーンではガイドは行わず、おやつを設置し動物の採食行動を観覧していただく形式としている。オオカミ舎では、おやつを設置しながら展示ガラス越しにマイクを用いたガイドを実施する形式としている。一方、猛禽舎では来園者のいる通路に出て対面でガイドを実施した後におやつを設置しており、来園者との距離が比較的近い運用としている。トラについては、採食行動の観察機会の提供を目的におやつタイムを実施している。 ・アンケート結果から、職員と来園者との物理的距離が近い猛禽舎、次いでオオカミ舎、サバンナ草食ゾーンの順に、ガイド内容の印象が強く残る傾向が確認された。このことから、来園者とのコミュニケーションの有無や距離感が理解促進に影響することが示唆された。 ・アンケートの自由記述では、「動物が餌を食べる様子がよく分かって楽しかった」「飼育員の説明が分かりやすく勉強になった」「動物との距離が近く迫力があつた」「好物に対する反応が見られて興味深かった」「コンドルの特徴（頭部の様子など）について知ることができた」など、観察体験や解説に対する肯定的な意見が多く見られた。 ・猛禽舎においては、来園者とのコミュニケーション時間を確保する形式でのおやつタイムを既に実施しており、今後は本取組の効果を踏まえ、他のおやつタイムにおいて同様の手法の導入を試行していく。また、サバンナ草食ゾーンについては施設構造上、同様の手法の導入が難しいことから、解説方法や情報提供の工夫等により、来園者の理解促進につながる運用について検討していく。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	おやつタイムの実施種を拡大しながら効果検証を行い、来園者アンケートに基づき、コミュニケーション手法の改善に向けた具体的な方向性を整理した。これにより、令和8年度以降の取組につながる実践的な検討を実施できたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	アンケート結果の分析を通じて、現状実施している取組の中でも特に高評価を得ているガイドの実施方法を把握し、その手法を展開する取組を進めていることは、計画を達成したと評価できる。今後も、イベントの質的向上を通じて、教育普及活動のさらなる発展に期待したい。		
A	次年度の年度計画	[12] 「ごはんタイム・おやつタイム」を継続して実施する。解説の際は一方的なガイドを見直し、観覧者との対話の機会を設けることで、動物の生態等に関する理解や関心を深めてもらえるよう改善する。		

評価シート（個票）

通し番号		14																															
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-2-(2) 園内外における学習機会の提供 職員が園内で実施する教育普及プログラムや企画展の実施、天王寺動物園に所蔵している剥製標本等の動物資料の展示や解説パネルの設置等を通じ、園内における学習機会を提供する。また、学校での授業に活用できる教育プログラムキットの貸出しや教員研修への協力等を通じ、園外における学習機会を提供する。																															
P	中期計画	第1-2-(2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習機活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。																															
	年度計画	令和6年度のアンケート結果を基に課題を抽出し、「教育普及アクションプラン」に基づいたメニューやその内容について、改善を図り、より高い教育効果へつなげる。																															
	評価事例	Ⅲ	・教育普及アクションプランに基づくメニューの実施 （指標：前年度と同水準以上）																														
		Ⅳ	・教育アクションプランに基づく取組により教育普及活動にあきらかに貢献した事例																														
Ⅴ		・教育アクションプランに基づく取組により教育普及活動にはるかに貢献した事例																															
D	行動	ディスカバー・プログラムに基づくイベントやワークショップを開催し、多くの利用者に行動変容を促せるような教育普及活動を実施した。 令和6年度実績 令和7年度実績 <table border="0"> <tr> <td colspan="3">(1) ディスカバー・プログラム</td> </tr> <tr> <td>・講話、ガイドウォーク</td> <td>131件</td> <td>102件</td> </tr> <tr> <td>・動物ショート・ガイド</td> <td>3件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>・職場紹介</td> <td>24件</td> <td>23件</td> </tr> <tr> <td>・飼育体験（職業体験）</td> <td>10件</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>・出張レクチャー（市内）</td> <td>52件</td> <td>65件</td> </tr> <tr> <td>（市外）</td> <td>64件</td> <td>55件</td> </tr> <tr> <td>・貸出キット・標本貸出し</td> <td>22件</td> <td>21件</td> </tr> <tr> <td>(2)「園長におまかせ！」講話</td> <td>6件</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>(3)動物とおき話</td> <td>24件</td> <td>24件</td> </tr> </table> ◆開園110周年記念 生物多様性展～ウンチがつなぐ しぜんの わ～ 4/10～4/30 来場者数：7,922人 ◆第2回 WELCOME TO 大阪湾 みんなで守ろう！海わたる鳥展 5/13～5/1 来場者数：1,745人 ★企画展「戦時中の動物園」 8/6～8/31 来場者数：15,389人 ★企画展「開園110周年記念～大阪の博覧会～」 8/19～9/21 ★企画展「ヒミツのジュウイSHOW」 10/28～11/9 来場者数：2,915人 ★企画展「企画展～午～ウマすぎちゃって、ごめんなさい」 12/23～1/12 来場者数：7,611人 4月「生物多様性展」や5月「海わたる鳥展」では、「認証マークがある製品を進んで選んでみようと思った」「鳥のすみかを日本に作って休んでもらう場を広げたい」等の意見が寄せられ、行動変容につながる回答が得られている。8月、本年度20回目となる「戦時中の動物園～語りつぐ、いのちの記憶～」を開催。9月末まで企画展「開園110周年記念～大阪の博覧会～」を開催し、天王寺区政100周年と関西万博と重なるため過去に開催された博覧会を取り上げ寄贈された動物などを紹介した。		(1) ディスカバー・プログラム			・講話、ガイドウォーク	131件	102件	・動物ショート・ガイド	3件	2件	・職場紹介	24件	23件	・飼育体験（職業体験）	10件	9件	・出張レクチャー（市内）	52件	65件	（市外）	64件	55件	・貸出キット・標本貸出し	22件	21件	(2)「園長におまかせ！」講話	6件	6件	(3)動物とおき話	24件	24件
(1) ディスカバー・プログラム																																	
・講話、ガイドウォーク	131件	102件																															
・動物ショート・ガイド	3件	2件																															
・職場紹介	24件	23件																															
・飼育体験（職業体験）	10件	9件																															
・出張レクチャー（市内）	52件	65件																															
（市外）	64件	55件																															
・貸出キット・標本貸出し	22件	21件																															
(2)「園長におまかせ！」講話	6件	6件																															
(3)動物とおき話	24件	24件																															
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	定例のディスカバー・プログラムや企画展だけでなく、開園110周年を記念した企画展やイベントを複数件開催したため。																													
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおりに																													
	ヒアリング結果	企画展等を継続して実施しているほか、開園110周年を記念した複数のイベントを開催し、アンケート結果からも行動変容につながる回答が確認できていることから、計画を達成したと評価できる。今後も、イベント内容の改善等を通じて、教育普及活動のさらなる発展に期待したい。																															
A	次年度の年度計画	〔13〕アンケート結果を基に課題を抽出し、「教育普及アクションプラン」に基づいたメニューやその内容について、改善を図り、より高い教育効果へつなげる。																															

評価シート（個票）

通し番号		15		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-2-(2) 園内外における学習機会の提供 職員が園内で実施する教育普及プログラムや企画展の実施、天王寺動物園に所蔵している剥製標本等の動物資料の展示や解説パネルの設置等を通じ、園内における学習機会を提供する。また、学校での授業に活用できる教育プログラムキットの貸出しや教員研修への協力等を通じ、園外における学習機会を提供する。		
P	中期計画	第1-2-(2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習棟活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。		
	年度計画	「天王寺動物園ボランティアクラブ1915」の活動機会を増やす。 また、NPO法人や学校・企業等と連携したイベントを実施することで来園者の学習機会を増やす。		
	評価事例	Ⅲ	・ボランティアの参加可能イベント数（種類）を増加させる ・NPO法人や大学等と連携したイベントを実施することで来園者の学習機会を増加させる（指標：前年度と同水準以上）	
		Ⅳ	・学習機会を提供したことにより教育普及活動にあきらかに貢献した事例	
Ⅴ		・学習機会を提供したことにより教育普及活動にはるかに貢献した事例		
D	行動	ボランティア活動は、イベント担当者（動物園職員や企業等）にボランティアの必要可否を確認している。ボランティアが必要であれば、担当者に活動内容や参加人数等の募集内容を確認し、Googleフォームにて募集をする。なお、基本的には参加希望者全員を受け入れているが、過度に募集人数が超えた場合は、先着順でボランティア活動に参加をさせていただいている。 4月 子どもユニフォーム撮影会（2日間）★ 5月 お客様満足度アンケート★ 6月 カバの歯磨きイベント（デンタルプロ株式会社と協賛） モーニングズー（2日間）★ お客様満足度アンケート★ 7月 ボランティア育成講座（2名加入） お客様満足度アンケート★ ホッキョクグマに氷柱プレゼント（株式会社蓬萊と協賛） 8月 子どもユニフォーム撮影会★ お客様満足度アンケート★ ホッキョクグマにお魚プレゼント（発泡スチロール協会と協賛） 9月 ボランティア育成講座（1名加入） お客様満足度アンケート★ ナイトZOO動物〇×クイズ（2日間） 10月 秋のモーニングズー（2日間）★ お客様満足度アンケート★ TenZoo小学生チャレンジ（2日間） 11月 天王寺動物園で学ぶSDGzoo（毎日新聞社主催） ホッキョクグマ誕生日イベント（株式会社蓬萊と協賛） 12月 東山動物園意見交換会★ 1月 ShoeZホッキョクグマイイベント（保全教育団体ShoeZと連携） 2月 ShoeZホッキョクグマイイベント（保全教育団体ShoeZと連携） お客様満足度アンケート★ 3月 はみがきうさぎ（NPO法人おくちのけんこう主催） ドリーム・デイ・アット・ザ・ズー ※参加者0名の活動は除く ※3月時点の天王寺動物園ボランティアクラブ1915会員（29名） ★令和7年度からの実施分		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	ボランティアの参加可能イベント数（種類）を増加させ、企業等との連携したイベントを実施することで来園者の学習機会を増加させたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおりに
	ヒアリング結果	企業等と連携したイベントを継続して実施するとともに、ボランティアの活動機会も増加しており、計画を達成したと評価できる。今後は、ボランティアの学習機会の充実につながる活動がさらに増えるよう期待したい。		
A	次年度の年度計画	〔14〕「天王寺動物園ボランティアクラブ1915」の活動機会を前年度より増やす。 また、動物学習会や飼育実習等を企画・実施することでボランティアの学習機会を提供し、ボランティアクラブ1915会員による動物ガイドの実施を目指す。		

評価シート（個票）

通し番号		16		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物園という限られた環境の中でも飼育動物の生活の質を高め、健康で生き生きと暮らせるよう、動物福祉に配慮した飼育を実践する。この際、環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策）やハズバンダリートレーニング（動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング）にも天王寺動物園全体として取り組むとともに、飼育技術の高度化に取り組む		
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。		
	年度計画	令和5年度に起きた動物の逸走事故を踏まえ、獣舎整備の際、逸走防止の観点を重視した確認を徹底するとともに、ヒヤリハットについては即時記録、即時共有を図り、安全衛生委員会での共有を図る。		
	評価事例	Ⅲ	・ヒヤリハットの定期的な事例共有及びマニュアルの定期的な検証 ・R5に発生した逸走事故を踏まえた安全教育の実施	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	・各獣舎での作業がマニュアルに基づいて安全に遂行されているか点検検証を行った。検証の結果マニュアルとの齟齬は認められなかった。 ・特定動物の飼育管理においては、複数人での施錠確認を徹底し、動物舎においてあらたに動物の居室を示す看板や指差確認を促すプレートを設置し、逸走防止および職員の安全確保を図った。 ・ヒヤリハットについては、発生した案件を毎月の職場安全衛生委員会および飼育連絡会で共有し、再発防止対策について議論した。 ・6月、ボールニシキヘビ・野間馬逸走が発生した。いずれもすぐに捕獲し、大事には至らなかったが、この事案を受け、園長、飼育展示課管理職、各班リーダーによる会議を開催し、動物の逸走防止の徹底および飼育安全管理に関する意識の再徹底を図った。 ・アムールトラの導入に伴い、トラ舎の飼育管理通路に監視カメラを設置したほか、3月に完成したアジアの森拡張部および新ホッキョクグマ舎においても監視カメラを整備した。これらは、死角をなくし、動物が不在と誤認して立ち入ることによる職員の負傷事故を未然に防止するとともに、動物の逸走防止および職員の安全確保を図ることを目的としたものである。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	ヒヤリハットの定期的な事例共有及び動物舎においてあらたに動物の居室を示す看板や指差確認喚呼を促すプレートの設置が完了した。また、新たに特定動物を飼育する動物舎への監視カメラの設置が完了したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	年度内に発生した2件の動物の逸走を踏まえ、獣舎への対策を講じるなど速やかに対応している。また、マニュアルの点検・検証を行うとともに、監視カメラ等の設置を完了しており、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[16] 樹上の森・休憩エリアの設計修正において、各種基準への準拠や動物福祉に配慮した内容を確認する。		

評価シート（個票）

17

通し番号			
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。	
		第2-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物園という限られた環境の中でも飼育動物の生活の質を高め、健康で生き生きと暮らせるよう、動物福祉に配慮した飼育を実践する。この際、環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策）やハズバンダリートレーニング（動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング）にも天王寺動物園全体として取り組むとともに、飼育技術の高度化に取り組む	
P	中期計画	第1-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物福祉に配慮した飼育を実践するために、環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングに園全体として取り組んでいく。取組みにあたっては、一定の考え方のもと体系的に行うとともに、定期的な検証を踏まえるほか、現在実践している飼育メニューも改めて点検のうえ、マニュアル化するとともに人材の教育・研修体制を構築する。	
	年度計画	「環境エンリッチメントおよびハズバンダリートレーニング取り組み方針」で定めた取組み種について、トレーニング実施種を37種から目標種数である40種（実施率100%）を目指す。また、環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニングともに量的評価だけではなく、対象個体の行動レパトリーの評価等、質的評価の導入を検討し、飼育動物の生活の質向上を進めるとともに、実施職員の増加により技術向上に努める。	
	評価事例	Ⅲ	・取組み種の継続実施および拡充と効果検証 （R7当初目標＝ハズバンダリートレーニング：40種、エンリッチ：58種） ・新たな質的評価の導入の検討
		Ⅳ	・拡充および効果検証したことによる飼育技術があきらかに高度化した事例 ・行動レパトリーの増加など質的向上が認められた場合。
		Ⅴ	・拡充および効果検証したことによる飼育技術がはるかに高度化した事例
D	行動	【トレーニング実施状況】 令和7年度は取組みの体系化と職員の習熟により、実施種数・内容ともに大幅に拡充し、より高度なトレーニングが可能となった。死亡個体等を除く実施可能な個体に対してハズバンダリートレーニングを実施し、実施種数は37種から40種以上へ拡大（実施率100%以上）を達成した。 また、各個体に対してトレーニングの継続および新規内容の追加を行うことで、飼育技術の高度化を実現した。特に、個体の反応性に応じた強化子の選択や変化（飽きの防止）、段階的な行動形成の工夫により、安定した継続実施が可能となった。 これらの取組により、動物の自発的な協力行動による健康管理が可能となる種や個体が増加し、保定や麻酔による個体への身体的・精神的負担の軽減につながるなど、動物福祉の向上に資する成果が認められた。 さらに、3月に導入したアジアゾウに対しては、導入直後からハズバンダリートレーニングを開始した。大型動物であるゾウについて、将来的な採血や蹄ケアを見据えたトレーニングに着手し順調に進捗していることは、当園の飼育技術の向上を示すものである。 また、本取組は将来的な低侵襲な健康管理を可能とし、動物福祉の向上につながるものと考えられる。 さらに、担当班の再編およびゾウ導入に伴い、新たなトレーニングに取り組む職員数は前年度から13名増となった。これにより、職員1人当たりの経験種数の増加や技術の平準化が図られ、組織全体としての飼育技術の底上げにつながった。 ○取組み種のレベルアップおよび新たに取入れたトレーニング ・カリフォルニアアシカ：採血（新規個体で採血成功）採血は高度な保定・協力行動を必要とするトレーニングであり、他園でも実施例は限定的。成功率向上に向け、別姿勢での行動形成を実施中。 ・ホッキョクグマ：体重測定（体重計への誘導、体重計上での定位維持を実施）大型猛獣における非侵襲的測定として高度なトレーニング。 ・ツル：体重測定（ツル全般を対象に体重計への脱感作および誘導を実施）複数個体への展開により群管理技術が向上。 ・ジャガー：体重測定（ホイッスルと強化子の条件付けを実施）条件付け完了後、測定場所への誘導および伏せ姿勢の行動形成を達成。現在、体重計への脱感作および部屋移動を段階的に実施中。大型肉食獣に対する一連の行動形成は高度な技術を必要とする。 ・グラントシマウマ：展示場への放飼馴致を完了。単独展示から群れ展示（3頭）への移行に成功し、群れ行動の安定化を実現。 【環境エンリッチメント】 令和7年度は効果検証を行うことで、行動レパトリーの増加など質的向上が認められる段階に至った。 また、探索行動や採食行動等の自然行動の発現や活動性の向上が確認され、環境エンリッチメントが動物福祉の向上につながることを確認することができた。 ・ホンドギツネ：運動量の増加を目指し、展示場・寝室の環境を改造。 ・キバタン：Amazonほしい物リストを活用しウッドチッププールの追加。掘る・齧るなど自然行動の発現を確認。 ・シショザル：雌雄の別居による行動変化の調査、エンリッチメントアイテムの追加による行動変化の調査。社会行動および活動パターンの変化を確認。 ・チンパンジー：施設移動（仮チンパンジー舎→チンパンジーベース）による行動変化の調査。環境変化への適応行動および探索行動の増加を確認。フィーダーやハンモックの追加により休息行動および遊戯行動の多様化を確認。 ・ニホンアナグマ・ホンドタヌキ：フィーダーや登り台を追加。探索行動および立体的移動の増加を確認。 来園者対象のエンリッチメントツール作成ワークショップを開催し、参加者に環境エンリッチメントについて学んでいただき、かつ実施件数の増加・内容の充実を図ることができた。 ・5月、7月：各1回、外部団体と共催（各回20名） ・9月：計3回、当園主催（計31名）	
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由 トレーニングおよび環境エンリッチメントの対象種を拡大するとともに、トレーニングの継続および新たなトレーニング内容の追加、ならびに環境エンリッチメントの取組を通じて新たな行動の発現を促した。その結果、行動レパトリーの増加など質的向上が認められ、飼育技術の高度化を実現した。加えて、来園者を対象としたエンリッチメントツール作成ワークショップを複数回開催することで、エンリッチメントの実施件数の増加にとどまらず、参加者に環境エンリッチメントの意義や手法について理解を深めていただく機会を提供することができたため。
	市の評価	Ⅳ	評価理由 法人評価のとおりのとおり
	ヒアリング結果	ハズバンダリートレーニング及び環境エンリッチメントの取組種数は目標を達成している。さらに、エンリッチメントの質的向上を図った結果、行動レパトリーの増加が見られるなど、計画以上の成果があったと評価できる。また、エンリッチメントツール作成ワークショップの開催により、来園者へ学習機会を提供するとともに、実際に獣舎内で使用されているツールを見に来る来園者もいるなど、園の魅力向上にも貢献した。	
A	次年度の年度計画	[15] 環境エンリッチメントおよびハズバンダリートレーニングについては、量的評価に加えて導入済みの対象個体の行動レパトリーの変化等に着目した質的評価に重点を置き、その評価対象個体数を増やす。これにより、飼育動物の生活の質の向上を図るとともに、飼育技術の向上に努める。ハズバンダリートレーニングにおいては、体重測定を実施できる個体数を増やす。	

評価シート（個票）

通し番号		18		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。		
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。		
	年度計画	令和6年度策定した「（仮称）新病院・研究棟／調理場 整備事業 基本構想」を踏まえ、基本計画を策定する。		
	評価事例	Ⅲ	・基本計画の策定	
		Ⅳ	・診療・研究環境が向上し、かつ予算をあきらかに下回る基本計画内容	
		Ⅴ	・診療・研究環境が向上し、かつ予算をはるかに下回る基本計画内容	
D	行動	【第1四半期】 （1）基本計画策定の発注に向け、他事例等について必要な情報収集を行った。 [スケジュール] ・～8月 発注準備 ・9月 公告 ・10～3月 業者決定・計画策定 【第2四半期】 （1）収集した他の基本計画業務委託の情報を参考に、発注仕様書作成を行った。 [スケジュール] ・～9月 発注準備 ・10月 公告 ・11～3月 業者決定・計画策定 【第3四半期】 （1）令和8年度予算要求にて、新病院等は令和12年度以降の事業期間に変更となり、基本計画についても延期となった。このため、基本構想での予定地について整備に関する法令等の確認など、適地選定の調査に基本計画予算を利用できないか支援担当と協議を実施した。 【第4四半期】 （1）支援担当と協議を行い、適地選定の調査に基本計画予算を利用できることとなり発注・契約（R8.2.16）した。基本構想を踏まえ各種調査（現状、法令、防災計画、敷地条件、用途条件等）を行い報告書として取りまとめた。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	基本計画につながる適地選定の調査ができたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	年度計画策定時点では令和7年度に新病院等の基本計画を策定する予定であったが、整備時期の変更を踏まえ、基本計画策定の前段階として適地選定調査を実施した。調査では、3つの候補地について状況整理を行い、新病院等の建設に必要な条件を網羅できる場所の検討を進めるなど、令和12年度の設計に向けた準備を適切に進めている。		
A	次年度の年度計画	[16] 樹上の森・休憩エリアの設計修正において、各種基準への準拠や動物福祉に配慮した内容を確認する。		

評価シート（個票）

通し番号		19		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-3-（2）動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。		
P	中期計画	第1-3-（2）動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。		
	年度計画	第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン（拡張）及びホッキョクグマ舎を完成させる。		
	評価事例	Ⅲ	・計画どおりの進捗（整備費増額・工期延長などの未然防止）	
		Ⅳ	・予算増額を伴わずかつ計画をあきらかに上回る飼育環境の整備事例	
Ⅴ		・予算増額を伴わずかつ計画をはるかに上回る飼育環境の整備事例		
D	行動	【第1四半期】 （1）施工業者との工事定例会（2週に1回）で工程や施工状況等を適時に把握し、動物飼育など園運営に支障のある施工計画があれば、各担当と情報共有・調整等を図り円滑な工事に努めた。特に、JAZAの適正施設ガイドラインや各種飼育施設基準等への準拠については、飼育担当と詳細な情報共有・調整等を図り円滑な工事進捗に努めた。 （2）令和7年度予算については、昨年度予算減額補正や工期延期の見込み（令和7年12月→令和8年3月）による増額要素を踏まえ、年度当初から受注者との変更協議をCMとともに密に実施し、受発注者間ともに変更内容の見直しを忌憚なく議論のうえ、一定の到達点を見出した。 【第2四半期】 （1）第1四半期同様、工事定例会のほか、適宜現場での施工状況を確認するなど、各担当と情報共有・調整等を図り円滑な工事進捗に努めた。 （2）第1四半期同様、令和7年度の増額要素を踏まえ、CMとともに受注者との変更協議のほか、図面や明細の確認を実施した。 【第3四半期】 （1）第1、2四半期同様、工事定例会のほか、適宜現場での施工状況を確認するなど、各担当と情報共有・調整等を図り円滑な工事進捗に努めた。 （2）令和7年度の増額要素を踏まえ、図面や明細を確認しCMとともに受注者との変更協議を実施し、令和8年3月までの工期延期の契約変更を実施した。 【第4四半期】 （1）上記同様、工事定例会のほか、適宜現場での施工状況を確認するなど、各担当と情報共有・調整等を図り円滑な工事進捗に努め年度内に完成できた。 （2）上記を踏まえ、予算内・工期内に完成できた。 （参考） CM（Construction Management） ・発注者を補助・代行するコンストラクションマネージャー（CMR）が、中立的立場で設計・発注・施工の各段階における各種マネジメント業務を担い、発注者の体制・能力不足を補完する仕組みのこと		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	アジアの森ゾーン・ホッキョクグマ舎が計画どおり完成したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおりに
	ヒアリング結果	施工業者と綿密な打合せを重ねた結果、両獣舎とも大幅な工期延長や予算増額を伴うことなく整備を完了し、年度内に引き渡しを受けたことは、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[16] 樹上の森・休憩エリアの設計修正において、各種基準への準拠や動物福祉に配慮した内容を確認する。		

評価シート（個票）

通し番号		20		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。		
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。		
	年度計画	既存獣舎の点検・補修について、維持管理計画に基づき実施するとともに、動物福祉の観点にも考慮し必要な小規模な改修を計画的に実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・計画に基づいた改修等の着実な実施（例：爬虫類生態館の外壁改修、昇降機設備改修	
		Ⅳ	・補修・点検・改修を着実に実施したことによるあきらかな飼育環境向上の事例 ・予算増額を伴わない計画をあきらかに上回る改修の進捗	
		Ⅴ	・補修・点検・改修を着実に実施したことによるはるかな飼育環境向上の事例 ・予算増額を伴わない計画をはるかに上回る改修の進捗	
D	行動	（１）維持管理計画に基づき、次のとおり実施済 【ペンギンパーク】 ・防鳥ネット設置工事〔入札不調２回（入札日 7/14、8/21）→随意契約（9/25）、R7.12末工期〕※完成済12/11 【爬虫類生態館・南半球館】 ・外壁改修その他工事〔公告9/17、入札10/22、契約11/6〕※完成済3/31 ・水処理設備改修工事〔公告11/28、入札1/19、契約2/10〕※完成済3/27 ・昇降機設備改修工事（R7.7.16契約）※完成済3/23 【トラ舎】 ・日よけ設置工事（クラウドファンディング）設計業務委託（R7.12.26契約）※完成済3/31 ・安全対策用カメラ設置工事（R7.8.1契約）※完成済10/31 【てんしばゲート】 ・サイン更新（R8.3.1契約）※完成済3/31 【カバ舎】 ・空調設備改修工事（R7.10.20契約）※完成済1/23 【サイ舎】 ・空調設備改修工事〔公告12/4、入札1/27、契約12/15〕※完成済3/27 【アフリカサバンナ（肉食）】 ・消防設備改修工事（R7.11.17契約）※完成済3/19 【天王寺動物園事務所】 ・ボイラー改修工事（R7.12.15契約）※完成済3/25 【新世界ゲート（事務所）】 ・空調設備改修工事（R7.10.20契約）※完成済1/23 【その他各獣舎】 ・各所建具改修工事〔公告11/20、入札12/25、契約1/9〕※完成済3/30 （２）実施の優先順位・時期等について各担当へ確認し、R7.8以降契約済の包括施設管理業務受託業者と費用見積を適宜確認し適宜改修・修繕を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	計画に基づいた改修等が完了したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	維持管理計画に基づき点検・改修を実施していることから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔17〕既存獣舎の点検・補修、小規模改良を行うとともに、その際には再生可能や省エネルギー設備の導入可否の検討および資機材の再利用に取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		21		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-4-(1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。		
P	中期計画	第1-4-(1) 繁殖の推進 種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取り組む。 また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。		
	年度計画	繁殖推進種ごとに新たな繁殖推進種における環境整備項目（チェックポイント）を設定し、繁殖に向けて継続的に取り組む。		
	評価事例	Ⅲ	・チェックポイント項目の継続実施およびチェックポイントの見直し実績 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・チェックポイントを見直したことにより、種の保存にあきらかに貢献した事例 ・チェックポイントに基づき取り組んだ結果、繁殖に成功した場合	
		Ⅴ	・チェックポイントを見直したことにより、種の保存にはるかに貢献した事例	
D	行動	・チェックポイントについては継続実施した。 ・並行してチェックポイント項目の妥当性を検証し、変更を行った（新たなペア形成のために新規個体導入検討、など） ・昨年度、チンパンジーを新規導入したので、新たなペア形成を行うにあたり、チェックポイントを新設した（情報収集、群れ形成） 群れ形成に成功したため、避妊薬の投薬を中止し、繁殖を目指している。 ・9月に多摩動物公園よりソデグロヅル（メス）の新規個体を導入。 10月にオス個体とのペアリングを実施。来シーズンでの繁殖を目指す。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	チェックポイント項目の継続実施およびチェックポイントの見直しを行ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	繁殖に向けたチェックポイントの取組を継続的に実施するとともに、検証・見直しを行っており、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔19〕繁殖推進種ごとに新たな環境整備項目（チェックポイント）を設定し、繁殖に向けて継続的に取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		22		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-4-(1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。		
P	中期計画	第1-4-(1) 繁殖の推進 種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取り組む。 また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。		
	年度計画	繁殖相手方の産卵（無精卵）のタイミングにあわせ、採精できるよう、オグロヅル（オス）の精液採取手技の確立に引き続き取り組むとともに、実際の人工授精を目指す。		
	評価事例	Ⅲ	・オグロヅルの適切なタイミングでの採精および人工授精ができた実績。	
		Ⅳ	・オグロヅルの人工繁殖により種の保存にあきらかに貢献した事例	
		Ⅴ	・オグロヅルの人工繁殖により種の保存にはるかに貢献した事例	
D	行動	・繁殖期である3月～7月に月1～2回採精練習を行った。また、オスへの手給餌での馴致や通路の誘導を行った。 ・繁殖相手方（他園）からの依頼を受けて計6回採精を試み、うち1回採精に成功した（ただし、精子はほぼ確認できず） ・埼玉県こども動物自然公園よりメス個体の鳴き声を共有してもらい、当園のオス個体に聞かせる試みを行ったが、変化は見られなかった。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	オグロヅルの適切なタイミングでの採精に成功した。 一方で、メス個体が産卵に至らず人工授精の実施には至らなかったが、繁殖機会の確保および種の保存の観点から、産卵を継続しているメス個体を飼育する他園へ移動させるなど、状況に応じた適切な対応を行ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	メスの産卵がなく人工授精には至らなかったものの、オグロヅルの繁殖に向けた取組を継続したことで、採精手法の技術向上が認められた。また、園のオグロヅルを他園へ貸与したことは種の保全への貢献につながり、今後の取組の展開も期待されることから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	-		

評価シート（個票）

通し番号		23		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-4-(1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。		
P	中期計画	第1-4-(1) 繁殖の推進 種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取り組む。 また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。		
	年度計画	オオサンショウウオ調査について兵庫県自然保護協会と連携して府内の調査に同行し、生息域内保全への取組の足掛かりとする。これに伴い、生息情報の蓄積と啓発活動を行い、府民の生息域内保全への理解を深める。		
	評価事例	Ⅲ	・オオサンショウウオの保全に繋がる企画の立案および実施 ・啓発イベントにおける参加者アンケートの設問を工夫し、理解が深まった方が60%を超えた場合。 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・啓発イベントにおける参加者アンケートの設問を工夫し、理解が深まった方が80%を超えた場合。 ・企画展の実施により、種の保存にあきらかに貢献した事例	
		Ⅴ	・企画展の実施により、種の保存にはるかに貢献した事例	
D	行動	・ 今後は兵庫県自然保護協会と共同で調査を行うだけでなく、当園職員のみでの調査も実施。なお、当園単独での調査実施は、調査体制および技術力が一定水準に達していることが前提となるものであり、当園の専門性の向上を示す成果である。 合同調査（4月、6月、7月、8月、9月、12月） ※10月、11月は天候不調により中止。 当園のみ（4月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月） ・ 11月の2日間、「JAPAN DAYS」と題し、オオサンショウウオやニホンイシガメなど日本産動物の多様性と共生について伝えるイベント（講話・スポットガイド：計12プログラム）を初めて立案・実施したところ、通常あまり関心を持たれない日本産動物をテーマとしたにもかかわらず、合計300名を超える参加があり、普及啓発の観点から高い効果が認められた。特に、定例ガイドを実施していない動物でのスポットガイドは新規性が高く、効果的な手法であったと考えられる。 ・ 別途実施したオオサンショウウオに関するイベントでは、アンケート回答者の61%が新たな気づきや学びがあったと回答しており、日本産動物に関する普及啓発の有効性が確認されている。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	オオサンショウウオ調査について兵庫県自然保護協会と連携して府内の調査に同行するだけでなく、これまでの調査実績が評価され、当園職員のみでの定期調査も実施できる体制を確立した。さらに、日本産動物の多様性と共生をテーマとしたイベントを初めて開催し、多くの参加を得るとともに高い教育効果を上げた。加えて、別途実施したオオサンショウウオ関連イベントのアンケートにおいて、理解が深まったと回答した参加者（高評価）が60%を超える結果となり、普及啓発の有効性が確認されたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	オオサンショウウオ調査について、単独での定期調査が認められたことは園への信頼の賜物であり、これまでの取組の成果が現れている。 また、継続してイベントを実施することで、生息域内保全への理解促進を図るなど、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔20〕 オオサンショウウオなどの在来種の調査を外部団体等と連携して実施し、生息域内保全の取組を実施する。ニホンイシガメの保全においては、野生個体由来の有精卵を園内で孵化させてから元の生息域内へ戻す「野生復帰」を計画する。また、生息域内保全への理解を深めるため、在来種の生息情報の蓄積と啓発活動を行う。		

評価シート（個票）

24

通し番号				
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。		
P	中期計画	第1-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。 また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。		
	年度計画	「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」で定めた重点領域である①動物繁殖生理学領域（種の保存）②動物行動学領域（動物福祉）③その他基礎研究領域（生物多様性）において、連携協定を締結した大学・機関、その他様々な組織と継続的に調査研究へ取り組む。		
	評価事例	Ⅲ	・調査研究の継続 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・調査研究を継続したことにより、飼育管理等にあきらかに貢献した事例 ・園独自もしくは連携協定による具体的な調査研究の成果があらわれた場合	
Ⅴ		・調査研究を継続したことにより、飼育管理等にはるかに貢献した事例 ・査読付き学術誌掲載レベルの論文の執筆		
D	行動	【1班】ケニアスナボアの床材の選好性検証（R7.3～） ⇒継続していた2匹のデータ取りも2月に終了し、一旦予定していたすべての内容が終了。 共同研究先の安佐動物公園にデータ送付済み。 【1班】ケニアスナボアの床材の選好性検証（R7.3～） ⇒継続していた2匹のデータ取りも2月に終了し、一旦予定していたすべての内容が終了。 共同研究先の安佐動物公園にデータ送付済み。 【2班】同居中のシショザルの糞中ホルモン測定に向けた糞の識別方法の調査（R7.4～） ⇒シショザルが識別可能となったことからフクロテナガザルに変更⇒フクロテナガザルで対象個体の糞の識別が可能となり、研究用の採便を開始した。さらにフランソワルトンも識別可能となり採便を開始した。 【3班】ホッキョクグマにおける性ホルモンと行動の関連性について（R7.4～） ⇒行動観察、採材（血液・糞便）については随時継続中。採血困難な時期が続いたため、糞便によるホルモン測定を岐阜大に依頼（R7.9～12月分）。今後返却結果と行動観察記録を照らし合わせて検証予定。 【4班】高齢レッサーパンダの飼育管理（R7.4～） ⇒季節ごとの対応の検討を継続中 【5班】トラの採血トレーニング、ジャガーの採血トレーニング（R7.4～） ⇒トラは現在ターゲットを用いながら姿勢をキープする段階。ジャガー・ロンはフックで尻尾を触ることに無反応になった。小春はフックで尻尾を投入口から尻尾の1/4を出すのが平気になった。 【企画班】来園者を巻き込んだ、高齢ブタオザルの行動記録収集（R6.11～） ⇒引き続きデータ収集と、カメラの行動記録整理中 【ふれんどしっぷ】テンジクネズミの体重管理（R6.4～） ⇒テンジクネズミ肥満対策、全体的に雌雄ともに平均体重を維持。引き続き体重管理は維持しつつ、管理が及ぼす行動等を検証していく 【外部機関との主な共同研究】 ・カバのエンリッチメントに関する研究（帝京科学大）⇒動物舎前で研究結果をポスター展示、HPに掲載 ・ジャガーのエンリッチメントに関する研究（帝京科学大）⇒論文提供を受け、獣舎前でポスター展示、HPに掲載 ・チンパンジーの行動観察（大阪大）⇒データ集積中 ・GnRHワクチンおよび GnRH徐放剤による繁殖および闘争抑制効果の検証とデータベース化（北大）⇒データ集積中 ・獣客類の進化における頸・胴移行部の形質の体軸に沿ったパターンニングおよびその間の関係の変遷-神経孔計測から復元される腕神経叢位置に特に着目した調査（国立科学博物館）⇒データ集積中		
	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	園内、他施設との共同研究とともに調査を継続して実施したため。
C	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおりに
	ヒアリング結果	令和7年度も計7班に個別の研究テーマを割り当て、園内にとどまらず他園や大学との共同調査研究を継続しており、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[21] 引き続き「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」で定めた重点領域である①動物繁殖生理学領域（種の保存）②動物行動学領域（動物福祉）③その他基礎研究領域（生物多様性）において、連携協定を締結した大学・機関、その他様々な組織と継続的に調査研究へ取り組む。 特に①で配偶子バンクとしての認知度を上げるべく、積極的に他園から精子保存の受け入れを実施する。 また、ゾウの繁殖につながるホルモン測定を、自園で行うための取組を開始する。		

評価シート（個票）

通し番号		25		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。		
P	中期計画	第1-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。 また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。		
	年度計画	園内掲示、ホームページ等で共同研究実績や、取組段階でも可能なものについては発表し、知見の共有を図るとともに、当園の成果については研究会等で発表する。		
	評価事例	Ⅲ	・園内掲示（ポスター）、HPの充実 ・共同で進めている研究実績などの発表（指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・複数の異なる職員による研究発表 ・園内掲示（ポスター）、HP等での公表 ・知見を共有かつ研究発表したことにより、飼育管理等にあきらかに貢献した事例	
Ⅴ		・知見を共有かつ研究発表したことにより、飼育管理等にはるかに貢献した事例 ・学会での各種賞の受賞		
D	行動	・6月18日の近畿ブロック動物園技術者研究会（開催：姫路セントラルパーク）にて「「ブタオザルのキキおばあちゃんを、みんなで見守ろうプロジェクト」における来園者の反応」というテーマで発表し、内容について黙舎前でポスターを掲示。 - 約3か月で約500件の観察データが投稿され、来園者に観察・記録してもらおうという参加型学習を行ってもらい、老齢個体の存在や動物福祉についての意識付けができたと考えられる。 ・7月23、24日の第8回野生動物保全繁殖研究会大会（開催：当園）にて「ニホンイヌワシ孵化直前の移動—1200kmの旅」というテーマで発表し、内容について黙舎前でポスターを掲示。 ・11月5、6日のキリン研究会（開催：おびひろ動物園）で「天王寺動物園での削蹄事例報告」というテーマで発表し、内容について黙舎屋内展示場でポスターを掲示。 ・11月7日の近畿ブロック臨床研究会（開催：海遊館）「高齢のドリルの健康管理」というテーマで発表した。 ・11月12日近畿ブロック動物園飼育係研修会（開催：神戸どうぶつ王国）にて「専門学校と協働運営する天王寺動物園内一施設での学生への効果」というテーマで発表し、ふれんどしっぷガーデン内でポスター掲示。 ・11月12、13日の第35回日本動物園水族館両生類爬虫類会議（開催：のいち動物公園）で「天王寺動物園における過去10年間の両生類・爬虫類の死因分析」というテーマで発表した。 ・2月3、4日第73回動物園技術者研究会（開催：アドベンチャーワールド）にて「天王寺動物園における飼育員の主観的幸福感とその影響 持続可能な動物園経営に向けて」、および宿題調査報告「日本の動物園・水族館における技術継承に関する調査」というテーマで発表した。 以上の研究発表において、「動物園における飼育員の職業幸福感和その影響：持続可能な動物園経営に向けて」に関し論文投稿し、動物園水族館雑誌第68巻第2号掲載予定（夏頃） <他機関との共同研究について、HPで公表したもの> ○カバのエンリッチメントに関する研究（帝京科学大）⇒動物舎前で研究結果をポスター展示。 ○ジャガーのエンリッチメントに関する研究（帝京科学大）⇒論文提供を受け、黙舎前でポスター展示。 <以下、継続案件> ○チンパンジーの行動観察（大阪大）⇒データ集積継続。 ○GnRHワクチンおよび GnRH徐放剤による繁殖および闘争抑制効果の検証とデータベース化（北大）⇒データ集積継続。 ○獣脚類の進化における頸-胴移行部の形質の体軸に沿ったパターンニングおよびその間の関係の変遷-神経孔計測から復元される腕神経叢位置に特に着目した調査（国立科学博物館）⇒データ集積継続。他、継続案件多数。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	7つの研究会で9名の職員により発表を行い、他園に情報共有を図った。キリン研究会では自園での削蹄の紹介を行うと共に他園の事例や基本的な削蹄道具の取扱い、道具の手入れも含め今後の蹄のケアに大変参考になった。また、黙舎周辺に発表の概要をポスターで掲示し、来園者にも園で取り組んでいる研究内容を周知したため。他機関との共同研究についてHPに掲載した。
	市の評価	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおりに
	ヒアリング結果	7つの研究会で発表を行い、自園での取組を発表したことで他園との情報共有を図った。また、研究内容を黙舎周辺にポスター掲示するなど、来園者への教育効果の向上にも取り組んだことは、計画以上の成果があったと評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔22〕園内掲示、HP等で共同研究実績や、取組段階でも可能なものについては発表し、知見の共有を図る。また、園の成果については研究会等で発表し、その内容についてポスターを作成し園内で掲示し、来園者にも周知する。		

評価シート（個票）

通し番号		26		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-1-(1) 機動的な組織体制の構築 理事長のトップマネジメントのもと、国内外の動物園の状況や動物飼育に関する理解に基づき、天王寺動物園の実情に即した機動的な組織体制を構築し、業務を執行する。 第3-1-(2) 適材適所の柔軟な人事配置 個々の職員の能力や専門性に応じた適材適所の人員配置を行い、高度な専門性が求められる業務には、必要に応じて外部から専門人材の登用を行う。		
P	中期計画	第2-1 自律的な組織経営 法人として「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という目指す姿を組織内外に周知徹底する。 また、中期目標の実現に向けた、組織の役職や人員について、その効果を定期的に検証し、必要に応じて見直しを図るとともに、専門性の高い業務について必要に応じて外部からの専門人材の登用を行う。		
	年度計画	引き続き法人の目指す姿を対外的に発信する。また、法人の目指す姿の実現に向け、職員の意識醸成等に継続的に取り組む。		
	評価事例	Ⅲ	・ホームページ等での情報公開の充実 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・職員の意識醸成のための新たな取組を行い、その結果としてアンケート結果などで行動変容が見られた場合	
Ⅴ		—		
D	行動	・ホームページでの情報発信 以下のとおりHPでの発信や内容の更新を行った。 7月 令和6年度業務実績評価の公表 8月 令和6年度年報を公表 SDGsの取り組み、調査研究の内容を更新 3月 第2期中期計画 3つの計画（経営戦略・組織力向上計画・施設整備計画）を公表 ・職員研修での意識の定着化 以下のとおり研修等を実施し、意識の定着化を図った。 5月 新規採用者研修において中期計画をはじめとする法人の目標について説明 10月 係長級以下を対象としたコンプライアンス研修を実施 近年起こった不適切事案を踏まえ、動物園の物品等の適正な管理や光熱水費について考えるグループワークを実施し、法人職員としてのコンプライアンス意識の向上を図った。 11月 係長級以下を対象に服務研修・文書事務研修を実施 管理職（部長・課長・代理）を対象に、e-ラーニング研修（経営戦略・組織力向上・コンプライアンス）を実施 1月 コンプライアンス強化月間を実施 長期ビジョン検討ワークショップの開催 2月 ホスピタリティマインド醸成研修を実施		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	各職員への研修を実施し、ホームページ等で情報発信の充実を図ったため。（評価事例のとおりに）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおりに
	ヒアリング結果	職員の意識醸成に向けて、新たな研修内容を取り入れるなどの取組を進めており、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[23] 法人の組織体制（外部の専門人材登用含む）について柔軟に見直しを行うとともに、職員がやりがいを持って働ける職場づくりのために、既存の会議を活用するとともに、イベント等で必要なPT（プロジェクトチーム）のあり方について検討を行い、横断的コミュニケーション機会を増やす。 毎年度実施のキャリアデザインシートにおいて、「業務にやりがいがある」と答える職員80%以上を目標とする。		

評価シート（個票）

27

通し番号		27		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-1-(1) 機動的な組織体制の構築 理事長のトップマネジメントのもと、国内外の動物園の状況や動物飼育に関する理解に基づき、天王寺動物園の実情に即した機動的な組織体制を構築し、業務を執行する。 第3-1-(2) 適材適所の柔軟な人事配置 個々の職員の能力や専門性に応じた適材適所の人員配置を行い、高度な専門性が求められる業務には、必要に応じて外部から専門人材の登用を行う。		
P	中期計画	第2-1 自律的な組織経営 法人として「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という目指す姿を組織内外に周知徹底する。 また、中期目標の実現に向けた、組織の役職や人員について、その効果を定期的に検証し、必要に応じて見直しを図るとともに、専門性の高い業務について必要に応じて外部からの専門人材の登用を行う。		
	年度計画	法人の組織体制（外部の専門人材登用含む）について検討し、随時採用をはじめ柔軟に対応する。		
	評価事例	Ⅲ	・各課へのヒアリングによる組織体制の点検・検討の継続 ・実施効果の検証 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
		Ⅴ	—	
D	行動	次年度の体制及び専門人材の登用について各課に聞き取りを行い、5月より派遣職員の人数について市との協議を進めた。9月に業務執行体制案ができた後、採用募集活動を進め、10月～2月にかけて採用試験を行い、的確に人材採用を行うとともに、再雇用職員の業務の見直しを行った。 ・4月 次年度の体制・令和6年度の外部人材登用実績について各課に聞き取りを実施。 ・8月～ 派遣職員の引き上げについて市との協議を実施。 ・8月～ 動物飼育専門員の採用募集 ・9月 業務執行体制案を決定 ・10月～ 役員選考 ・2月～ 動物飼育専門員（任期付職員）の採用募集※退職・育休にかかる募集 ●令和7年度 専門人材登用実績 7件 内訳：研修1件、ワークショップ1件、シンポジウム3件、企画展1件、歯の治療指導1件 ⇒登用の結果、新たな知見を得られ、業務に活かせるとの評価が多かった。（法人内評価：求めていた以上の成果があった6件、求めていた内容が実施できた1件）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	人員体制についてヒアリングなど点検作業を実施し、採用活動も含め計画どおり実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	人員体制の検討を進め、遅滞なく業務を遂行できたことに加え、外部人材についても必要に応じて登用しており、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[23] 法人の組織体制（外部の専門人材登用含む）について柔軟に見直しを行うとともに、職員がやりがいを持って働ける職場づくりのために、既存の会議を活用するとともに、イベント等で必要なPTのあり方について検討を行い、横断的コミュニケーション機会を増やす。 毎年度実施のキャリアデザインシートにおいて、「業務にやりがいがある」と答える職員80%以上を目標とする。		

評価シート（個票）

通し番号		28		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第3-2-(1) 人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会 及び 世界動物園水族館協会等関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員の能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。）に関する研修参加等）を積極的に設ける。		
		第2-2-(1) 人材の確保・育成 人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。		
P	中期計画	第2-2-(1) 人材の確保・育成 人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。		
	年度計画	必要に応じて人材育成方針及び計画の修正、資格取得支援対象資格の追加を行う。		
	評価事例	Ⅲ	・ 方針及び計画の必要に応じた見直し ・ 資格取得支援の仕組みの周知 ・ 必要に応じた支援対象資格の追加（指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	・ 人材育成方針について、令和7年度版へ更新を行い職員あて周知した。 ・ 資格取得支援制度について、これまでの運用及び昨年度の大阪市からの監査委員監査での指摘事項（会計基準に関する資格を有する職員の育成）を踏まえ次のとおり改正を行い、職員あて周知した。 <改正内容> ・ 簿記検定を対象資格として追加 ・ 対象資格について、難易度等に応じて下位資格・上位資格・最上位資格を設定 ・ 現行の対象資格の下位資格にあたるものについても支援を追加（衛生管理者（第二種）、簿記検定（3級）） ※上位資格の難易度・関連性および業務への実用性を鑑みて今後も追加を検討		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	方針及び計画の必要に応じた見直しを行ったため。また資格取得支援制度の見直しを実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	大阪市の監査指摘を踏まえ、資格取得支援制度の見直しを行うとともに、人材育成方針についても適宜修正するなど、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[25] 組織力向上計画で示す理想像に含まれる素養および理想の動物園人成長の段階的モデルより人材育成に必要な各種研修を計画的に実施する。 国内外の研修等の参加機会の付与や提案型研修制度を活用し、知識・技術の習得機会を設けるとともに、参加者へのアンケート等で効果を確認し、活用しやすい制度にする。		

評価シート（個票）

通し番号		29		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第3-2-(1) 人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会及び世界動物園水族館協会等関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員の能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。）に関する研修参加等）を積極的に設ける。		
P	中期計画	第2-2-(1) 人材の確保・育成 人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。		
	年度計画	人材育成方針及び計画、提案型研修制度に基づき研修を実施する。多様化、複雑化に伴い内容が相互に関連、重複する研修については類型化のうえ体系的に実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 類型化のうえ体系的に整理した研修の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・ 人材育成方針及び計画に基づき研修を実施したことにより、職員の能力・意欲喚起があらに向上した事例 ・ 提案型研修への実施の結果、法人の課題解決及び人材育成上の効果があった場合	
		Ⅴ	・ 人材育成方針及び計画に基づき研修を実施したことにより、職員の能力・意欲喚起がはるかに向上した事例 ・ 提案型研修への実施の結果、法人の課題解決及び人材育成上の効果はるかにあった場合	
D	行動	更新した人材育成方針・計画に基づき次のとおり研修を実施した。 ・ 4月 各課長にヒアリングを行い、人材育成方針での令和7年度研修計画について追記修正。 ・ 5月 防災研修を実施。（全職員対象） ・ 5月 新規採用者研修を実施。（新規採用者対象） ・ 10月 コンプライアンス研修・情報セキュリティ研修・契約事務研修を実施 近年起こった不適切事案を踏まえ、動物園の物品等の適正な管理や光熱水費について考えるグループワークを実施。（係長以下職員対象） ・ 11月 服務研修・文書事務研修を実施。（係長以下職員対象） 管理職を対象に、e-ラーニング研修（経営戦略・組織力向上・コンプライアンス）を実施。（部長・課長・代理対象） ・ 2月 ホスピタリティ研修を実施。（全職員対象）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	計画的に研修を実施し、新しい研修についても検討するなど現状を反映し修正したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和7年度は提案型研修の実績はないものの、人材育成方針及び計画に基づく研修を継続して実施するとともに、新たに経営戦略・組織力向上・コンプライアンス研修を取り入れるなど、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔25〕組織力向上計画で示す理想像に含まれる素養および理想の動物園人成長の段階的モデルより人材育成に必要な各種研修を計画的に実施する。 国内外の研修等の参加機会の付与や提案型研修制度を活用し、知識・技術の習得機会を設けるとともに、参加者へのアンケート等で効果を確認し、活用しやすい制度にする。		

評価シート（個票）

通し番号		30		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第3-2-(2) 職員の能力向上と意欲喚起 インセンティブが適正に働く人事評価制度を確立することにより、勤務意欲を高め、職員個人の能力及び組織力の向上を図る。		
P	中期計画	第2-2-(2) 職員の能力向上と意欲喚起 法人設立当初に策定した評価制度の定期的な効果検証を行い必要に応じて見直しが行なわれる仕組みを構築する。		
	年度計画	令和6年度に構築したインセンティブが働く評価制度について定着を図るとともに、制度の検証を行い、必要に応じて見直しを行う。		
	評価事例	Ⅲ	・ アンケート等による検証結果の分析を含む人事評価制度の運用 ・ 必要に応じた見直し	
		Ⅳ	・ 検証結果の分析を含む人事評価制度の運用により職員の能力・意欲喚起があきらかに向上した事例	
		Ⅴ	・ 検証結果の分析を含む人事評価制度の運用により職員の能力・意欲喚起がはるかに向上した事例	
D	行動	人事評価制度について、次のとおり検証・見直しを行い、実施した。 ・ 8月 令和6年度構築したインセンティブ制度についてアンケートを実施。 ・ 9月 アンケート結果の検証。 ・ 一次評価者と二次評価者の間で職員の勤務状況や面談結果・評価結果のすり合わせ・共有ができていないのではという意見が多数あったため、令和6年度の自己申告・中間面談については部長・課長が実施していたが、一次評価者も中間面談に入ることにした。 ・ 評価者の基準に相違があるとの指摘が挙げられたことから、一次評価者である係長級に評価基準を共有するため、係長に対しての説明会を12月に実施した。 ・ 9月～10月 自己申告・中間面談の実施。 （部長・課長・一次評価者による面談） ・ 12月 人事評価制度説明会（係長対象） ・ 12月 評価者・被評価者に対し人事評価制度研修の実施（eラーニング） ・ 1月～3月 人事評価制度の実施		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	アンケート等による検証結果の分析を行い、見直しを行いながら人事評価制度の運用を行ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	職員アンケートの結果を踏まえ、人事評価制度の面談者の見直しを行うなど、計画を達成したと評価できる。今後はインセンティブ制度が職員の意欲喚起につながるよう、評価基準の明確化や運用面の工夫を含めた仕組み作りに期待したい。		
A	次年度の年度計画	[27] 人事評価制度やインセンティブ制度について、アンケートなどで効果検証を行い、必要に応じて修正を行う。		

評価シート（個票）

通し番号		31		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第3-3-(1) P D C Aサイクルの確立 評価委員会の見解に基づき本市が評価基準を作成し、その評価基準を動物園経営のP D C Aサイクルに組み込み効果的・効率的な業務執行に努める。		
P	中期計画	第2-3-(1) P D C Aサイクルの確立 法人設立初年度は、評価の対象となる年度計画の各項目毎に適切に進捗管理が実施できるような仕組みを構築し、日常業務の履行が評価基準の達成に自然と結びつくよう取り組みを行う。さらに、達成状況を踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。		
	年度計画	年度計画及び中期計画の進捗状況について定期的に市と確認する。		
	評価事例	Ⅲ	・進捗管理シートによる進捗状況の確認及び市との共有 ・中間評価の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
		Ⅴ	—	
D	行動	・年度計画について中間評価にかかるスケジュールを確認し、市と共有。（9月の定例会議にて） ・動物園支援担当と毎月1回の定例会議及び各種会議において都度情報共有を行い、年度計画・中期計画や予算・決算スケジュールの調整を行った。 ・第2期中期目標・中期計画・3つの計画については、昨年度末よりスケジュールを確認し、都度データのやり取り・打合せを行い、意思疎通をはかった。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	年度計画や中期計画の進捗状況を定期的に市と確認・共有し、スケジュールに沿って中間評価（年度計画）、見込み評価（中期計画）が行えたため。 同時並行で、第2期中期計画についても円滑に策定できたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和7年度は第1期中期目標期間の最終年度であったことから、第2期中期計画や付随する3つの計画について市側との調整を重ねながら策定した。 また、業務実績中間評価等を通じて進捗状況を本市と共有するなど、計画的に取り組が進められており、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔29〕 年度計画及び中期計画の進捗状況について、法人内で適宜確認を行うとともに、定期的に市とも確認し、状況に応じて年度計画・評価基準の見直しの協議を行う。 効果的・効率的な業務執行の実現に向けて、まずは可能な業務からデジタル化を進め、業務プロセスそのものの見直しをはかるD Xを推進する。		

評価シート（個票）

通し番号		32		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第3-3-(2) ICTの導入及び活用 ICTを導入・活用することで、業務の標準化と事務処理の効率化を図る。		
P	中期計画	第2-3-(2) ICTの導入及び活用 事務効率化の観点から人事財務部門へのICTの導入はもちろん、動物福祉向上の観点から飼育診療部門において、飼育、各種トレーニング、診療の履歴などの情報を一体的に管理できるよう、ICTの導入と日常的な活用に取り組む。		
	年度計画	人事財務システムの安定運用を図るため、操作マニュアルの更なる充実を進めるとともに、必要に応じてバージョンアップやワークフローシステムなどの新たなシステム導入を検討する。		
	評価事例	Ⅲ	・導入しているシステムの安定運用 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・導入しているシステムによりあきらかに効果的・効率的な業務執行ができた事例 ・新たなシステムの導入ができた事例	
Ⅴ		・導入しているシステムによりはるかに効果的・効率的な業務執行ができた事例		
D	行動	各システムの安定運用を図るため、次のとおりバージョンアップ・システム導入を実施した。 ・4月 勤怠システム研修を実施。 研修資料について各課に周知。 ・6月～ DXにかかるPTを定期的に実施。 ・7月～9月 全職員のPCについてWindowsの大型アップデート（Windows10⇒11）を計画的に実施。 ・11月 kintone導入に向け説明会等への参加。 ・11月～ kintone導入の検討。 ・3月 kintoneを導入・マニュアル等の周知。 今後、業務改善の取り組みを計画的に進める。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	バージョンアップ等を適宜実施することで安定運用ができたため。（評価事例のとおりに）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	安定的なシステム運用に努めたほか、今後、業務の効率化に活用すべく新たにkintoneを導入したため。
	ヒアリング結果	安定したシステム運用を維持しつつ、今後の各種業務の効率化に向けてkintoneを導入したことは、計画を達成したと評価できる。一方、令和7年度時点では運用開始に至っていないため、早期の稼働開始に向けた準備を進めるとともに、運用開始後は活用範囲の拡大を含め、積極的な利活用を図られたい。		
A	次年度の年度計画	〔35〕DX推進の一環として、ワークフローシステムの活用によるペーパーレス化を促進し、経費の削減に努める。 光熱水費の使用量について、デジタル化による管理方法の検討を行い、削減に努める。 包括施設管理業務委託（令和7年8月～）で取り組んでいる業務の効率化（例：紙管理⇒データ管理等）を継続実施する。		

評価シート（個票）

33

通し番号		33		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	入園料収入5.3億円・入園者数181万人を目標とする。（令和7年度予算）		
	評価事例	Ⅲ	・目標値の達成	
		Ⅳ	・目標値をあきらかに上回り、その原因把握・分析ができた場合	
		Ⅴ	・目標値をはるかに上回り、その原因把握・分析ができた場合	
D	行動	入園料収入：524,740,514円 入園者数：1,696,515人 【入園券に係る事柄について】 4月1日（火）→大阪周遊パス1日券拡大版 運用開始 4月13日（日）→万博チケット提示割引を開始、万博に行かれたお客様の回遊が目的 ＜総計40,907件＞ 6月13日（金）→ミオクラブ会員割引を開始、周辺施設との回遊が目的 ＜3月31日現在：8,789件＞ 6月27日（金）→KIPSカード各種会員割引を開始、周辺施設との回遊が目的 ＜3月31日現在：13,189件＞ 10月1日（水）→キューズモールフレンズポイントカード提示割引 運用開始 ＜3月31日現在：9,386件＞ 12月16日（火）→外国人旅行客を獲得するため、海外用のWEB販売窓口を開設 ＜3月31日現在着券数：7,194人＞ 【収入の確保について】 4月1日（火）→寄附付き入園券の運用を開始（寄付金 1,952,200円 ※3月31日現在） 6月13日（金）→ガチャ付き入園券の運用を開始（プチ 920,500円 ※3月31日現在） ※ファンクラブプチの運用を上げるための施策 3月27日（金）→JR東海ツアーズと学習プログラムを主とした「ファミリー向けコンテンツ」を実施（大人18人小人2人） 【企業への販売について】 大阪信用金庫→大人5,700枚 ホテルアンダの森→大人 1,500枚、小人 550枚 株式会社リロクラブ→大人 200枚 など 企業イベントでの団体入園や宿泊特典として当園の入園チケットを販売 変なホテル→大人220枚（なんば・心斎橋のホテルに動物園部屋を設置） 【連携割引先とのPRについて】 連携割引や前売り引換入園券を販売している企業様にナイトZ00の告知を依頼し、各施設内やWEB上での発信をしていただくことができた。 ご協力いただいた企業（敬称略）→アンダの森大阪天王寺タワー、M10天王寺、近鉄百貨店、KIPSカードデジタルアプリ（アプリ内での配信協力）、周遊パスHP、あべのキューズモール		
C	法人の自己評価	Ⅱ	評価理由	周辺施設との連携や海外用web販売等、新たな取組を行ったものの、大阪・関西万博の開催で他施設と同様に観光需要が万博会場周辺へ集中したことや、猛暑の長期化の影響もあり、入園料収入、入園者数共に目標値の達成ができなかったため。
	市の評価	Ⅱ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	入園料収入および入園者数は目標達成に至らなかったものの、上半期は集客が伸び悩んだ一方で、猛暑の影響がなくなり、大阪・関西万博終了後の下半期は入園者数が令和6年度比で増加している。その結果、通年では例年並みの入園者数を確保した。		
A	次年度の年度計画	[31] 「天王寺動物園経営戦略」に基づき、来園者のターゲット層ごとに応じたイベントを、法人内において検討し、できるだけ早期のSNSを通じた周知に取り組むことで、新たな来園者を獲得する。 外国人の方が事前に購入できる電子チケットの販売を継続し、インバウンドの来園者を獲得する。 天王寺・阿倍野エリアの集客力のある周辺施設と連携割引を実施し来園者の確保に努める。 これらの取組等により、来園者数201万人、入園料収入835百万円を目標とする。		

評価シート（個票）

通し番号		34		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	2回目のクラウドファンディングを実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・クラウドファンディングの目的達成	
		Ⅳ	・クラウドファンディングにおける新たな取組を行い、目標額を上回った場合 ・クラウドファンディングの支援者をファンクラブ会員へあきらかに取りこめた場合	
Ⅴ		ー		
D	行動	～7月 購入物品の検討、費用等の確認 7月 第5回PTの開催、内容の決定（トラのエンリッチメント設備） 8月 契約事務審査会の実施・業者の決定、スケジュールの検討、ストーリーの作成、返礼品の検討、連絡先の整理 9月 第6回PTの開催、大まかな目標金額の決定（1stゴール1,400万円、2ndゴール2,200万円）、ストーリーの作成、リターン品の検討、連絡先の整理 10月 目標金額の確定、プロジェクトページの作成、リターン品の検討、サポート業者との打合せ（毎週1回） 11月 ストーリーの確定、リターン品の確定、クラウドファンディング開始、両ゲートでの募金箱設置、直接受領による代理支援受付、営業活動（企業、ファンクラブ会員、過去寄附者、前回支援者等）、掲示物・プロジェクトページ・SNS等による広報活動、サポート業者との打合せ（毎週1回） 12～1月 営業活動（企業、ファンクラブ会員、過去寄附者、前回支援者等）、プロジェクトページ・SNSを活用したブログ・ライブ配信等の広報活動、1stゴール達成、サポート業者との打合せ（2週間に1回）、目標金額（2ndゴール）達成 2～3月 リターン品の詳細について打合せを実施、各リターン品の仕様書作成および業者選定、体験系リターンの実施、支援者へ御礼の連絡・一部リターン品の送付、支援者へのファンクラブ・寄附に関する営業活動を実施		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	ウェブサイトだけでなく、両ゲートでの募金箱の設置や直接受領の取組により、当初目標としていた1stゴールのみならず、2ndゴールの目標金額を達成したため。
	市の評価	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	クラウドファンディング用の募金箱の設置といった新たな取組に加え、ホームページやSNSを活用した積極的な広報活動により、最終的にはクラウドファンディングの目標額を超える2,377万円を獲得したことは、計画以上の成果があったと評価できる。また、クラウドファンディングの支援者全員（約1,000人）に対し、返礼品の発送時にファンクラブの案内チラシを同封することで、新規会員の獲得に向けた取組を行っている。		
A	次年度の年度計画	[30] ファンドレイジングについて、専門性のある企業に業務委託し、現状分析と今後の取組について検討する。		

評価シート（個票）

通し番号		35		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	寄附額13百万円（ファンクラブ、クラウドファンディングを除く）を達成する。		
	評価事例	Ⅲ	・目標額の達成	
		Ⅳ	・目標値を超えかつ収入確保に向けた新たな取組事例	
		Ⅴ	－	
D	行動	○4月～ 寄附付き入園券の運用開始 ○6月～ 寄附ポスターを園内に掲示 ○7月～ 寄附リーフレットを園内に配架 ○8月 寄附付き入園券の運用を変更し、個別に一口100円の寄附を受け入れ開始 ○9月 寄附年間目標金額突破 ○10～12月 ファンクラブ会員限定イベント参加者に寄附の案内 ○1月 ライオン募金の清掃 募金箱の投入口を広げ硬貨だけでなく紙幣の投入も可能に⇒収入増 ○3月 来年度の記念品や手続きの効率化について検討		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	寄附総額83百万円と目標額を大幅に超えただけでなく、寄附付き入園券の運用開始及び運用変更、ライオン募金の投入口の改良といった新たな取組を実施したため。
	市の評価	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和7年度から寄附付き入園券の運用を開始するなど、新たな取組を実施した。さらに、イベントでの声かけやポスター掲示、リーフレットの配架等の取組により、令和7年度の目標額を大幅に上回る寄附額を獲得したことは、計画以上の成果があったと評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔32〕園内外でのPRを強化するほか、寄附者が参加できるイベントを検討するなどし、予算額（1,400万円）を超える寄附額（ファンクラブ、クラウドファンディングを除く）を目標とする。		

評価シート（個票）

通し番号		36		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	園内事業者と連携しながらオリジナルグッズの開発と販売促進を行い、売上目標額23百万円を達成する。		
	評価事例	Ⅲ	・目標額の達成	
		Ⅳ	・目標値を超えかつ収入確保に向けた新たな取組事例	
		Ⅴ	－	
D	行動	令和7年度歩合収益額 26,801,856円 【令和7年度承認オリジナルグッズ】売上1,747万円 ・ペンギンの日クリアファイル ・マレーグマの日クリアファイル ・キリンの日 ミニタオル ・レッサーパンダBDチャーム ・ポストカード ・チンパンジーの日ピンバッジ ・モルモット感謝の日ピンバッジ ・ホウちゃんの立体メモ ・レッサーパンダカステラ焼き ・オオカミシームレスパンツ レッサーパンダシームレスパンツ ・パイ&クッキー缶 ・レッサーパンダの日 ミニタオル ステッカー ・ホッキョクグマ・レッサーパンダピンバッジ ・アルバム表紙 カード ・アクリルキーホルダー ・ホッキョクグマBD ・カレンダー2026 ・ジャガーの日アクリルキーホルダー ・ユニチャームボールペン ・ジャガーの日ピンバッジ ・ホウちゃんBDピンバッジ ・新年3連アクリルキーホルダー ・サガラ刺繍サコッシュ ・新年ビッグアクリルキーホルダー ・国際ホッキョクグマの日2026 ・猫の日ピンバッジ ・福袋ピンバッジ ・国際ホッキョクグマの日2026 ・カバのゲンちゃんBD ・シマウマの日ピンバッジ ・カバチャームキーホルダー ・LAQ天王寺動物園リミテッドBOX 【110周年グッズ】売上988万円 ・110周年オリジナル時計及び腕時計 ・110周年ミニタオル ・110周年A4 クリアファイル ・110周年マグカップホウちゃん&シルエット ・110周年ステッカー ・110周年アクリルキーホルダー ・110周年金平糖 ・110周年Tシャツ ・110周年オリジナル紙袋 【コラボ商品（変なホテル、天王寺警察、サンリオ、千趣会等）】売上1,216万円 ・千趣会コラボ レッサーパンダ ポアブランケット レッサーパンダ ポアスヌード ・サンリオコラボ ペんてる ステッカー ジャガードタオル レザーベアKH アクリルスタンド マグネット パタパタメモ ・天王寺動物園×天王寺警察 アクリルおまもり ・天王寺動物園 はぴだんぶいガチャ ・天王寺動物園×変なホテル ホッキョクグマ・レッサーパンダトートバッグS ・天王寺動物園 千趣会コラボ アニマル転写プリントTシャツ 千趣会コラボ 刺繍キャップ ・天王寺動物園×ピリケン（金平糖・ガーゼタオル・靴下・アクリルキーホルダー） 【トラ関連商品】 ・天王寺動物園 トラチャーム 天王寺動物園開園110周年を記念したオリジナル時計（カラビナ）は好評を得たため、第2段を6月21日（土）に販売した。また、天王寺動物園110周年を記念したオリジナル腕時計4種類を8月1日（金）に販売。時計は110本限定、シリアルナンバー入り。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	前年度比で入園者数は減少したが、110周年コラボの記念グッズの売れ行きが好調なこともあり、目標額を達成したため。（約5百万円超）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和7年度も引き続きグッズ開発に携わるとともに、110周年オリジナルグッズの販売等に取り組んだ結果、昨年度を大幅に上回る歩合収益額を獲得したことから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[34] 園内事業者と連携しオリジナルグッズの開発を行い販売する。また、動物イベントにおける関連グッズも販売する。さらに、新たに導入される動物についての情報を迅速に共有し、新規導入動物のオリジナルグッズの開発も積極的に行い、目標額23百万円（歩合）を達成する。		

評価シート（個票）

37

37

通し番号				
中期目標		(前文) 世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第4-2 経費の節減 常に高いコスト意識を持って動物園経営を行い、日々の業務内容等の点検・精査により、経費を節減することはもちろんのこと、獣舎整備等の投資についても地方独立行政法人における制度上の優位性を最大限に活かし、発注方法等の工夫で、経費の抑制に努める。		
P	中期計画	第3-2 経費の節減 日々の業務内容等の点検・精査や管理業務における外部委託内容の精査、獣舎整備における発注方法の工夫及び固定経費のさらなる節減等により運営経費の抑制に努める。		
	年度計画	・ごみの排出量削減及びペーパーレス化に取り組む。 ・水道・電気使用量について、前年度（令和6年度）と比較・検証を行い、使用量節減の方策を検討・実施する。 ・これまでの包括施設管理業務委託（令和4年8月～令和7年7月）を踏まえ、次期（令和7年8月～）の発注を維持管理業務の効率化（例：紙管理⇒データ管理等）を考慮した内容に見直し、契約後実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・排出量や使用量の節減 ・水道・電気使用量の節減方策の検討 ・包括施設管理業務委託の効率化の検討（契約含む）	
		Ⅳ	・大幅な経費節減 ・新たな経費削減事例	
		Ⅴ	—	
D	行動	・会議でのペーパーレス化について、各課に改めて周知を行った。 毎月行っている法人内の定例会議や今年の6月より実施している係長会についてPCを持参し会議を行っている。 包括施設管理業務の効率化の一環として、報告のデータ化を継続して行っている。 ・ごみの排出量削減については、従来の張り紙に加え、環境局のごみの分別にかかるポスターを事務所に掲示し、排出量の削減を呼びかけた。 ・水道・電気の節減については、注意喚起の取組やヒヤリハットの一環で電気のつけっぱなしや水道の閉め忘れに注意するよう注意喚起を都度行っている。 また、電気使用量の注意喚起について、関電からの節電要請が出た日には朝礼で周知を行い節電を呼びかけた。 ・10月実施のコンプライアンス研修において、光熱水費の節減やペーパーレスについてのワークショップを行い経費削減について意識を高めた。 <参考> 電気使用量 R6：3,611,899kW/R7:3,690,835kW（前年度比+2.19%） 水道使用量（全体） R6：239,999㎡/R7:262,704㎡（前年度比+9.46%） コピー用紙（A4・A3） R6：205,500枚/R7:204,000枚（前年度比-0.73%） 【電気使用量について】 令和7年度は、全国的に観測史上最高水準（前年比+2.36℃）の猛暑が5月から10月まで長期化したため、令和6年度と比較して11月までの電気使用量は106,298kWと増加したが、12月から3月の実績は27,362kWの減とした。 【水道使用量について】 （1）地下水ポンプ故障に伴う上水使用増加 16,123㎡ 令和8年1月以降、地下水汲み上げポンプが故障しており、カバ舎において通常使用している地下水の代替として上水を使用している。なお、当該ポンプは現在も故障中であり、引き続き上水利用が継続している。 （2）新獣舎（ホッキョクグマ舎）遊泳場等の検査にかかる水道使用量の増 3,298㎡ （3）猛暑対応による水道使用量の増加 5,442㎡ ①来園者対応に係る水道使用量の増加 来園者の暑熱対策としてミスト散水を実施するとともに、利用環境の維持に必要な灌水作業を強化した結果、水道使用量が例年を上回った。 なお、ミスト散水箇所は令和6年度の2か所から3か所へ増設している。 また、高温期にはフラミンゴ等の獣舎周辺において悪臭が発生し、来園者からの問い合わせもあったことから、衛生確保を目的に池水の入替頻度を増加させた。 ②動物の健康管理に係る水使用量の増加 高温環境の影響により、動物の飲用水および水浴び用貯水の蒸発量が増加した。このため補給（注水）頻度が増えたほか、飼育環境の衛生維持のため池水の入替頻度も増加し、水使用量の増加につながった。特に夏季においては、例年の約1.5倍以上の頻度で水交換を実施した。 以上のとおり、施設不備や工事対応、猛暑の長期化に伴う環境変化への対応、さらには動物管理および衛生管理の強化により、水道使用量の増加要因は複数生じていた。 一方で、節水意識の徹底および使用量の適正管理に継続的に取り組んだ結果、これら特筆すべき増加要因を除いた場合には、令和6年度と比較して使用量は抑制されているものである。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	猛暑の影響により電気・水道使用量の抑制が難しい状況の中、安全確保に配慮しつつ、節電・節水の取組を継続的に実施し、可能な範囲で排出量および使用量の節減に努めたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	猛暑による動物の健康維持に必要な電気・水道の使用量増加のほか、施設の不備への対応・工事の実施に伴う使用量増加といった不可避の要因もあったものの、これらの増加要因を除けば昨年度比で削減できているため。
	ヒアリング結果	令和7年度は、猛暑や設備の不具合、工事の実施等の影響により、水道・電気使用量の削減には至らなかった。しかし、これらの増加要因を除けば前年度比で削減できており、節減に向けた取組は非常に意義のあるものといえる。今後も動物の健康および飼育環境を最優先としつつ、運用改善や設備面の工夫により、無理のない範囲で省エネ・節水の取組を継続されたい。		
A	次年度の年度計画	[35] DX推進の一環として、ワークフローシステムの活用によるペーパーレス化を促進し、経費の削減に努める。光熱水費の使用量について、デジタル化による管理方法の検討を行い、削減に努める。包括施設管理業務委託（令和7年8月～）で取り組んでいる業務の効率化（例：紙管理⇒データ管理等）を継続実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		38		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第4-2 経費の節減 常に高いコスト意識を持って動物園経営を行い、日々の業務内容等の点検・精査により、経費を節減することはもちろんのこと、獣舎整備等の投資についても地方独立行政法人における制度上の優位性を最大限に活かし、発注方法等の工夫で、経費の抑制に努める。		
P	中期計画	第3-2 経費の節減 日々の業務内容等の点検・精査や管理業務における外部委託内容の精査、獣舎整備における発注方法の工夫及び固定経費のさらなる節減等により運営経費の抑制に努める。		
	年度計画	第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン（拡張）及びホッキョクグマ舎の整備費について、新たに不可避要因等の外部影響による増額が見込まれる場合は、内容や仕様の見直し等を行い、中期計画で定める予算額内で整備する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 第一期リニューアル整備事業の中期計画で定める事業費内での整備（指標：中期計画で定める予算額7,262百万円未満）	
		Ⅳ	・ 第一期リニューアル整備事業のあきらかな事業費削減	
Ⅴ		・ 第一期リニューアル整備事業のはるかな事業費削減		
D	行動	【第1四半期】 （1）CMとともにコスト管理の徹底と予算額内で収める増減要素の精査を実施した。 【第2四半期】 （1）外部影響による変更や増額の有無について、引き続きCMとともにコスト管理の徹底と予算額内で収める増減要素の精査を実施した。 【第3四半期】 （1）上記同様、外部影響による変更や増額の有無について、引き続きCMとともにコスト管理の徹底と予算額内で収める増減要素の精査を実施した。 【第4四半期】 （1）上記を継続し、予算額内での整備を行うことができた。 第一期リニューアル整備事業総額 7,227百万円		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	コスト管理を徹底し、第一期リニューアル整備事業が中期計画で定める事業費内で完了できたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	アジアの森ゾーン（拡張）およびホッキョクグマ舎の整備にあたっては、CM業務を活用しつつ費用の増減を精査し、予算内の整備ができたことから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[36] 樹上の森・休憩エリアの設計修正において、工事費のコストダウンについても検討する。		

評価シート（個票）

通し番号		39		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築		
P	中期計画	第8-2-(4)-① 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 集客施設運営上の特性及び地方独立行政法人法上求められる内部統制の考え方を踏まえ、重要なリスクを回避する体制が機能するとともに、必要に応じて見直しが可能な仕組みを構築する。		
	年度計画	内部統制委員会において、内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告を踏まえ、必要な改善策を検討する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 内部統制体制に関する定期的な検証	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	内部統制委員会について、次のとおり開催し、検証・改善策の検討を行った。 ・ 4月 個人情報漏洩が発生したため、発生状況の調査および再発防止のための施策について議論し、全職員への周知を行った。 ・ 5月 内部統制委員会において、令和6年度の内部統制委員会における取組結果の定期的な確認を行い、6月の理事会において報告を行った。 - また、園内での事故発生（物損）について、発生状況の調査および再発防止のための施策について議論し、緊急連絡メモの取り扱いについて全職員あて周知した。 ・ 6月 ボールニシキヘビの所在が一時的に確認できなかった事案が発生した際には、発生状況の調査および再発防止のための施策を議論するとともに、同様の事案の防止対策については、メール・回覧・張り出しだけでなく状況に応じて個別説明を行うなどの周知徹底を図ることを改めて確認した。 - また、全職員に対し注意喚起と緊急連絡メモの取り扱いについて周知を行なった。 ・ 9月 緊急連絡メモについて、大阪市あて連絡すべき内容の記載漏れがなくなるよう様式を変更してはと意見が出たため変更し、全職員あて周知を行った。 ・ 11月 管理職（部長・課長・代理）を対象に、eラーニング研修でコンプライアンス研修を実施した。 ・ 1月 全職員を対象にコンプライアンス強化月間を実施。セルフチェック、啓発ポスターの掲示を行うとともに、朝礼においても強化月間の周知を行った。 - また、無許可兼業（アルバイト）が発生したため、改めて規程について周知するとともに全職員への注意喚起を行った。 ・ 3月 給与不正受給・守秘義務違反が発生したため、再発防止のための施策について議論し、全職員への注意喚起を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	内部統制体制に関する定期的な検証を行ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおりに
	ヒアリング結果	不適正事案等の問題が発生した場合には、再発防止策を議論の上、周知している。 また、本市への緊急連絡メモの様式を改定するなど、適宜改善に向けた取組を行っていることから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔38〕 内部統制委員会において、内部統制が有効に機能しているかを定期的に確認し、状況を踏まえ必要な改善策を検討する。 公益通報制度について、重要性・通報者の秘密保持義務・不利益取り扱いの禁止について研修等で改めて周知を行い、職員の制度への理解度を高める。		

評価シート（個票）

通し番号		40		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第5-1-(1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築		
P	中期計画	第8-2-(4)-① 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 集客施設運営上の特性及び地方独立行政法人法上求められる内部統制の考え方を踏まえ、重要なリスクを回避する体制が機能するとともに、必要に応じて見直しが可能な仕組みを構築する。		
	年度計画	リスク管理規程に基づくリスク管理を着実に実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・リスク管理の取り組み （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	令和7年度のリスク管理対象業務は①新獣舎整備計画に基づく獣舎整備、②希少動物の導入、③動物逸走、④服務規律、⑤災害発生、⑥文書・情報管理、⑦盗難・器物破壊であるが、このうち、 ①毎週の実務者会議で進捗確認を実施した。 ②毎週の理事長報告で状況報告・進捗確認を実施した。 ③収集した案件を毎月の職場安全衛生委員会および飼育連絡会で共有し、再発防止策について議論した。また、特定動物の飼育管理においては、複数人での施錠確認を徹底し、動物舎においてあらたに動物の居室を示す看板や指差確認を促すプレートを設置した。 ④11月に服務研修を実施した。 ⑤11月BCP会議において、緊急時連絡受信専用携帯電話の導入について議論するとともに、業務継続計画フロー及び目標復旧レベルの明示について検討した。 ⑥10月の情報セキュリティ研修でマニュアルの周知を行った。 ⑦令和6年度末にリスク管理委員会で取り決めた盗難・器物破壊が発生した場合のルールに基づき、事案が発生した際は警察への届け出を速やかに行うなどの対応を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	計画的にリスク管理に取り組んだため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	リスク管理規定に基づく管理対象業務について、研修の実施や定期的な進捗確認を行いながら改善策を検討していることから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[39] リスク管理委員会において、年度当初に前年度の振り返りと当年度の計画を確認し、以降必要に応じてリスク管理委員会を開催し、管理体制の見直しを行う。		

評価シート（個票）

通し番号		41		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(2) 法人運営に必要な諸規程の整備、周知徹底及び適切な運用		
P	中期計画	第8-2-(4)-② 法人運営に必要な諸規程の整備と周知徹底、適切な運用 法人運営にあたって整備した諸規定を関係職員が十分に理解したうえで、円滑に運用できるよう取り組むとともに必要に応じて見直しを行う。		
	年度計画	諸規程について必要に応じて見直しや整備を行うとともに、特に重要な規程（就業規則、職員倫理規程、契約規則など）については、全職員を対象とした研修を定期的に実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 諸規程の更新 ・ 全職員や階層別研修の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
		Ⅴ	—	
	行動	・ 下記の規程等について改定し、適宜職員あて周知を行った。 「地方独立行政法人天王寺動物園役員報酬規程」（R7.4.1）（改定） 「地方独立行政法人天王寺動物園提案型研修制度実施規程」（R7.4.1）（改定） 「地方独立行政法人天王寺動物園理事会規程」（R7.5.7）（改定） 「地方独立行政法人職員勤務時間、休日及び休暇等に関する規程」（R7.6.1）（改定） 「地方独立行政法人天王寺動物園旅費に関する規程」（R7.7.1）（改定） 「地方独立行政法人天王寺動物園資格取得にかかる支援実施要綱」（R7.7.1）（改定） 「地方独立行政法人天王寺動物園職員災害補償規程」（R7.8.1）（新規） 「地方独立行政法人天王寺動物園職員給与規程」（R7.12.1）（改定）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	諸規程類の運用状況を確認し、適宜改定および新規整備を行ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	年間をとおして適宜諸規定の見直しを行うとともに、新たに災害補償規定を整備するなど、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔40〕 諸規程について必要に応じて見直しや整備を行うとともに、特に重要な規程（就業規則、職員倫理規程、契約規則等）については、全職員を対象とした研修を定期的に実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		42		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(3) コンプライアンスの周知徹底		
P	中期計画	第8-2-(4)-③ コンプライアンスの周知徹底 法令順守に加えて、独立行政法人の職員として社会（来園者）の要請に応える行動は何かを理解する。		
	年度計画	コンプライアンス意識の浸透のため、研修のほか強化月間などの取組を継続して実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・継続したコンプライアンスの取組	
		Ⅳ	—	
		Ⅴ	—	
D	行動	コンプライアンス意識の浸透のため、次のとおり取り組みを実施した。 ・10月 コンプライアンス研修を実施。（係長以下職員対象） 令和6年に起こった不適切事案を踏まえ、動物園の物品等の適正な管理や光熱水費について考えるグループワークを実施し、法人職員としてのコンプライアンス意識の向上を図った。 また、大阪市のコンプライアンスハンドブックについても内容について合わせて周知を行った。 - また、研修内容については全職員に共有を行った。 ・11月 管理職（部長・課長・代理）を対象として、eラーニング形式でコンプライアンス研修を行った。 ・1月 全職員を対象にコンプライアンス強化月間を実施。セルフチェック、啓発ポスターの掲示を行うとともに、朝礼においても強化月間の周知を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	コンプライアンス研修を実施するとともに、1月をコンプライアンス強化月間とするなど、コンプライアンス意識の浸透を図ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	コンプライアンス強化月間等の取組を実施するとともに、物品の適正管理等コスト意識向上に関するグループワークや研修を実施していることから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[41] コンプライアンス意識の浸透のため、研修のほか強化月間等の取組を継続して実施する。		

評価シート（個票）

43

通し番号				
中期目標		(前文) 世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(4) 個人情報等の保護		
P	中期計画	第8-2-(4)-④ 個人情報等の保護 個人情報等の保護に関する法律に基づいて整備した法人の個人情報保護規定を職員全員が十分に理解・運用できている状態とする。		
	年度計画	個人情報取扱事務に関する重要管理ポイントが着実に浸透するよう、研修等で周知を図る。		
	評価事例	Ⅲ	・継続した研修の実施	
		Ⅳ	—	
		Ⅴ	—	
D	行動	重要管理ポイントについて、次のとおり周知等行った。 ・年度当初 個人情報取扱事務に関する重要管理ポイントが着実に浸透するよう、全職員あて周知。 ・4月 個人情報の漏えい事故が発生したため、改めて全職員あてに注意喚起を行った。 ・10月 情報セキュリティ研修でも今回のインシデントを踏まえ、研修内容に個人情報取扱についての内容を盛り込み、改めて重要管理ポイントの確認を行いつつ研修を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	4月に個人情報流出のインシデントが発生したが、その後の研修等で改めて個人情報の取扱と管理の重要性を説明し、その後の再発が防止できたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおりに
	ヒアリング結果	情報セキュリティ研修では、マイナンバーの取扱い方法を説明するなど、重要管理ポイントの周知を着実にやっている。 一方で、令和7年度においても個人情報流出事案が発生していることから、次年度個人情報の取扱いに関する理解が一層深まるよう、研修内容の充実・徹底を図りたい。		
A	次年度の年度計画	〔42〕 個人情報取扱事務に関する重要管理ポイントが着実に浸透するよう、研修等で周知を図る。		

評価シート（個票）

44

通し番号				
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第5-1-(5) 内部監査及び監事による監査の適切な実施		
P	中期計画	第8-2-(4)-⑤ 内部監査及び監事監査の適切な実施 内部監査により定期的に内部統制環境の有効性をモニタリングするとともに、監事による監査を通じて、内部統制に関する必要な見直しを行う。		
	年度計画	内部監査・監事監査を実施するとともに、改善措置や不適正な事案等の発生を受けた再発防止策が講じられているかを随時監査において確認する。 また、市の監査結果における指摘事項が改善されているかも併せて確認する。		
	評価事例	Ⅲ	・内部監査・監事監査の実施 ・随時監査の実施 ・市の監査結果にかかる指摘事項の改善内容の確認・措置の実施	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	・令和6年度に実施された大阪市からの監査委員監査にかかる指摘事項を受け、会計基準に関する資格を有する職員の育成の一環として、資格取得支援制度の対象資格に簿記などを追加した。また、チェックリストについて再構築を行った。 ・令和7年度は随時監査を行う必要のある不適切な事象はなかったため実施していない。 ・10月 大阪市あて措置状況報告書提出 ・10月 内部監査・外部監査で実施する内容を検討 ・11月～ 監査実施 ◆監査テーマ ＜内部監査＞ ・理事会 ・管轄庁等への各種届出 ・決裁・供覧文書保管 ・第1期リニューアル工事（令和6年度実績分） ・令和6年度内部監査指摘事項に対する対応状況 ＜監事監査＞ ・小口現金および有価証券等の実査 ・第1期リニューアル工事（令和6年度実績分） ・決算確認		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	内部監査・監事監査を実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和6年度の大阪市からの監査指摘については、適宜対応を行った結果、全て措置済みとなった。また、定期監査も実施していることから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[43] 内部監査・監事監査を実施するとともに、改善措置や不適正な事案等の発生を受けた再発防止策が講じられているかを随時監査において確認する。		

評価シート（個票）

通し番号		45		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(6) ネットワークセキュリティの強化		
P	中期計画	第8-2-(4)-⑥ ネットワークセキュリティの強化 個人情報等の機密情報の漏えいを未然に防ぐため、情報セキュリティ対策を徹底する。		
	年度計画	セキュリティポリシー、マニュアルの運用状況を適宜検証のうえ改訂を行うとともに、設立団体である大阪市と同等の研修を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 必要に応じたマニュアルの改訂および研修の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
		Ⅴ	—	
D	行動	・ 7月～9月 セキュリティポリシーに基づき、全職員のPCについてWindowsの大型アップデート（Windows10⇒11）を計画的に実施した。 ・ 10月 係長級以下の職員を対象に情報セキュリティ研修を行い、動物園の取組、大阪市・法人で発生したケースについて説明した。 ・ 11月 また、研修内容については全職員に共有を行った。 部長・課長・代理に対し、e-ラーニング研修を実施し、情報セキュリティにかかる内容を盛り込んだ研修（SNSの使い方）を実施した。 セキュリティポリシーにかかるマニュアルについては、今年度について改定の必要はないと判断したが、今後も検証を行っていく。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	セキュリティポリシーに基づきPCのアップデートを行うとともに研修を実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和7年度においても、マニュアルの検証や全職員向けの研修を実施している。また、Windowsの更新等にも適切に対応していることから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[44] セキュリティポリシー、マニュアルの運用状況を適宜検証のうえ改訂を行うとともに、研修を通して周知を行う。 個人情報の漏えいを防ぐため、入力事務のデジタル化・簡素化を進める。		

評価シート（個票）

通し番号		46		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第5-2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(5) 来園者の安全確保 園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。		
	年度計画	第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン（拡張）及びホッキョクグマ舎の工事が継続することから、工事に伴う事故が無いよう来園者及び職員の安全対策を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・設計・工事の法令順守および来園者・職員の安全対策の実施	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	【第1四半期】 （1）受注者から提出される施工計画書等を適時に確認し、工事定例会にて情報共有等を図った。現時点では、来園者及び職員の安全面について支障のある計画はなかった。 【第2四半期】 （1）第1四半期同様、来園者及び職員の安全面について支障のある計画はなかった。 【第3四半期】 （1）第2四半期同様、来園者及び職員の安全面について支障のある計画はなかった。 【第4四半期】 （1）第3四半期同様、来園者及び職員の安全面について支障のある計画はなかった。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	工事車両の動線分離や安全な移動通路の確保など、来園者・職員の安全対策を着実に実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	施工業者による事故は発生したものの、来園者および職員に危険が及ぶ重大な事故はなく工事を終了したことから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[45] 獣舎整備の際、逸走防止の観点を重視した確認を徹底するとともに、ヒヤリハットについては即時記録、即時共有を図り、安全衛生委員会において共有する。		

評価シート（個票）

47

通し番号				
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第5-2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(5) 来園者の安全確保 園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。		
	年度計画	来園者と職員の安全確保及び安定した園運営の観点から、獣舎及び園内施設の定期点検を着実にを行う。		
	評価事例	Ⅲ	・定期点検の着実な実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
		Ⅴ	—	
D	行動	【第1四半期】 （1）獣舎点検の実施時期は、上半期・下半期のサイクルで実施（例年9月、3月） （2）包括施設管理受託事業者による巡回点検業務、保守管理業務について、業務実施計画書に基づき日報・月報、作業報告書等により実施状況並びに指摘事項の確認を行った。 （3）包括施設管理受託事業者による点検時の不具合・故障履歴等報告書により、応急措置及び補修等の修繕を実施した。 【第2四半期】 （1）獣舎点検（上半期）→9月実施済み （2）第1四半期同様、包括施設管理受託事業者の業務実施状況、指摘事項の確認を行った。 （3）第1四半期同様、包括施設管理受託事業者により応急措置及び補修等の修繕を実施した。 【第3四半期】 （1）獣舎点検（上半期）→10月上旬実施済（複数日） （2）第1四半期同様、包括施設管理受託事業者の業務実施状況、指摘事項の確認を行った。 （3）第1四半期同様、包括施設管理受託事業者により応急措置及び補修等の修繕を実施した。 【第4四半期】 （1）獣舎点検（下半期）→3月実施済（複数日） （2）第1四半期同様、包括施設管理受託事業者の業務実施状況、指摘事項の確認を行った。 （3）第1四半期同様、包括施設管理受託事業者により応急措置及び補修等の修繕を実施した。 ・年度を通じて、来園者および職員の安全確保を最優先に、逸走防止を重視した獣舎点検や包括施設管理受託事業者による日常・定期点検および報告確認を実施し、その他不具合には応急措置と迅速な修繕対応を行うなど、安定した動物園運営に取り組んだ。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	定期点検を着実に実施し、安全確保等に寄与できたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	職員による獣舎点検に加え、包括管理事業者による各種点検・修繕を実施していることから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[46] 定期・日常点検を着実に実施し来園者の安全に影響を及ぼさないように対処する。		

評価シート（個票）

通し番号		48		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第5-2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(5) 来園者の安全確保 園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。		
	年度計画	令和6年度の実施結果により、より来園者の安全確保につながる効果的な猛獣脱出訓練として、シナリオを通知しない訓練及びあらたに想定される複数の動物逸走について机上訓練を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・関係機関と連携した猛獣脱出訓練等の実施 ・効果的な猛獣脱出対策訓練の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	・5月 全職員を対象に防災研修を行い、全職員を対象に猛獣脱出時の体制確認及び捕獲までの流れの再確認するとともに、捕獲道具の保管場所や使用方法について周知を徹底した。 ・7月 大阪市天王寺消防署 訓練担当と連携し消防訓練を実施。 （防火管理者を含め各課より数名、近鉄・ゲートスタッフ・警備員数名） ・12月に防災訓練（初動訓練、災害図上訓練）を実施し、その際自然災害の二次災害として猛獣の逸走があったケースについても訓練を実施した。（各課より数名） 動物園支援担当と連携し、緊急連絡方法について確認を行った。 ・2月には安全管理研修（全職員対象）および猛獣脱出対策訓練（主に飼育展示課・動物診療課対象）を実施した。 猛獣脱出対策訓練ではシナリオ非開示とすることで、より実践的かつ対応力向上につながる訓練とした。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	防災研修を行い、全職員を対象に猛獣脱出時の体制確認及び手順を再確認するとともに、捕獲道具の保管場所や使用方法について周知を徹底し、緊急時対応の向上を図ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	シナリオを事前通知しない形式で猛獣脱出訓練を実施することで、より実践的かつ本番に近い訓練となっており、計画を達成したと評価できる。今後も関係機関と連携した訓練を継続されたい。		
A	次年度の年度計画	[47] より来園者の安全確保につながる効果的な猛獣脱出訓練として、シナリオを通知しない訓練及びあらたに想定される複数の動物逸走について机上訓練を実施する。		

評価シート（個票）

49

通し番号		49		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-3 職員の安全衛生管理 職員が安全かつ快適な労働環境で業務に従事できるよう、安全対策の徹底と事故防止に努める。 また、職員が心身ともに健康を保持し、その能力を十分発揮できる職場環境づくりに努める。		
P	中期計画	第8-2-(6) 職員の安全衛生管理 労働安全衛生法等に基づいた安全衛生管理体制に加え、職員の健康保持促進のための取組みを進めるとともに、職員へ周知徹底する。		
	年度計画	安全衛生管理体制を確立するとともに、健診等も含め職員の健康保持のための取組を進める。		
	評価事例	Ⅲ	・安全衛生管理体制の確立と健診等の着実な実施 （指標：前年度と同水準） ・事故及びヒヤリハット事例の前年度からの減少	
		Ⅳ	—	
		Ⅴ	—	
D	行動	・毎月安全衛生委員会を実施し、時期に応じた安全対策を周知するとともに、事故やヒヤリハット事例についても会議内で共有し、議事とともに全職員あて周知を行った。 ・昨年度健康診断結果について、産業医が再度確認し、数値等注意が必要な職員に対し、健康面にかかる助言や血圧の測定等を行い、職員の健康保持促進の取組みを行った。 <実績> ・4月 産業医・衛生管理者の選任 ※前年度から引き続いて選任 破傷風対象者調査 破傷風業者決定 ・5月 ハラスメント相談窓口の設定・周知 健康診断実施業者決定 ストレスチェック業者決定 5月～9月 破傷風予防接種実施 7月～8月 健康診断・特殊健康診断実施（1回目） 9月～11月 健康講座実施 10月 ストレスチェック実施 1月～2月 特殊健康診断（2回目）※獣医師のみ 毎月1回 安全衛生委員会、産業医職場巡視実施した。 ヒヤリハット事例の様式を作成し、事例が起こった場合は各課係長以上に適宜供覧を行うとともに、安全衛生委員会にてヒヤリハット事例を共有した。 ※参考 ヒヤリハット報告件数 110件（令和6年度46件※8月より実施） 公務災害 2件（令和6年度1件） 本来、ヒヤリハットは未然防止策の徹底により発生自体が減少していくことが望ましい指標である。しかしながら、令和6年度途中にヒヤリハットの共有体制を具体化し、報告ルールや周知を進めた結果、令和7年度において報告件数が大幅に増加した。これは、潜在的に存在していたリスクが可視化され、現場からの積極的な報告が促進されたことの表れであり、安全意識の向上およびヒヤリハット事例を共有するという意識が定着しつつあると前向きに評価できる。 今後は、この蓄積されたヒヤリハット情報を分析し、発生要因の改善につなげることで、報告件数の質の向上と実際のリスク低減の両立を図っていく。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	安全衛生委員会を定期開催した他、健康診断、ストレスチェック、健康講座、事故・ヒヤリハット事例の共有を着実に実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	健診等を着実に実施し、職員の健康保持に向けた取組を進めている。ヒヤリハット事例については、報告ルールの見直しや共有の周知を進めた結果、リスクの可視化と再発防止に向けた土台づくりにつながっている点は評価できるため。
	ヒアリング結果	職員の安全衛生管理について、引き続き安全衛生委員会の開催や産業医による面談を実施している。ヒヤリハット事例については、前年度からの減少は達成できていないものの、報告ルールの見直しや共有の周知を進めた結果、リスクの可視化と再発防止に向けた土台づくりにつながった。今後は、事例の分析を継続し、具体的な改善につなげられるよう、引き続き取り組まれない。		
A	次年度の年度計画	[48] ヒヤリハット事例について、毎月の安全衛生委員会で共有するとともに、全職員あて周知を行い、日常業務での安全意識向上を目指す。 健康診断やストレス調査の結果を、安全衛生委員会において共有するとともに、職場環境の改善を行う。		

評価シート（個票）

通し番号		50		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第5-4 環境に配慮した取組の推進 環境への負荷を低減するため、天王寺動物園内及び事務所内において環境に配慮した取組を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(7) 環境に配慮した取組の推進 WAZA（世界動物園水族館協会）の持続可能戦略で示されたSDGsへの貢献に向け、環境に配慮した取組を推進する。		
	年度計画	SDGsに関する園内での取組を拡充するとともに、企業等と協働しSDGsの取組を進める。		
	評価事例	Ⅲ	・SDGsの園内での取組拡充及び企業等との協働 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・SDGsの園内での取組拡充及び企業等との協働しあきらかに地球環境保全に貢献した事例	
		Ⅴ	・SDGsの園内での取組拡充及び企業等との協働しはるかに地球環境保全に貢献した事例	
D	行動	・Team Expoの共創事業の一環として各種イベント※を共同で開催し、ペットボトルのキャップ回収について継続して行った。 ※企業等と共同で実施したイベント ・グリーンベイOSAKAイベント（育樹イベント、講話）：KIOUETAI ・共生展（動物をモチーフにした美術作品展示、ワークショップ）：美術文化協会・日本木文化学会 ・ひとと動物もみんながいきいきシンポジウム：立命館大学、atoa ・古くなったユニフォームのアップサイクルを昨年度に引き続き実施。 ・昨年度に引き続き、食品ロス削減目的での飼料（レタス・パン等）について継続的に受け入れるとともに、持ってきていただくサイクル・量について不定期だったところを週に1回と決め、さらに無駄を省くよう調整を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	ユニフォームのアップサイクル、企業等と共同で開催したイベントや食品ロスの削減を継続して行ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	食品ロス削減に継続的に取り組み、使い切れる量に合わせて受入れ量を調整することで、廃棄の防止に加え、保管・管理にかかる手間やコストの低減を実現していることから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[49] SDGsに関する園内での取組を拡充するとともに、地域・企業等と協働しSDGsの取組を進める。		

評価シート（個票）

通し番号		51		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第5-5 情報公開の推進 法人の運営状況について透明性を確保するため、毎年の業務実績報告書等により情報公開を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(8) 情報公開の推進 情報公開を推進し、運営状況の透明性を高めることで、法人の活動への理解及び信頼を得る。 また、法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報も、積極的に公表する。		
	年度計画	引き続き、法人に対する理解を深めてもらうよう、財務諸表や年報をはじめとする法人情報等の情報公開を推進する。		
	評価事例	Ⅲ	・財務諸表や年報の公表 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	・業務実績についての報告書については7月に法人ホームページで公表した。 ・令和6年度の年報について、開園110周年の報告・取り組みを盛り込み、8月に法人ホームページで公表した。 また、営業用に製本し、寄附実績のある民間企業等に配布した。 ・第2期中期計画・3つの計画（経営戦略・組織力向上計画・施設整備計画）をホームページで公表した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	財務諸表や年報について遅滞なく公表したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和6年度の財務諸表や年報を公表したほか、年報を民間企業等へ配布するなど外部への発信を強化し、法人への理解促進につながる取組を実施していることから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[50] 年度計画、財務諸表や年報をはじめとする法人情報等の情報公開を遅滞なく進めるとともに、関連情報についても積極的に公表し、法人に対する理解を深めてもらう。		

評価シート（個票）

通し番号		52		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第5-6 B C Pの策定 地震や台風等大規模な自然災害の発生や新興感染症の流行等によるリスクを最小限とするため、B C P（事業継続計画）を策定し、重大事故等の危機事象が発生した際の体制を構築する。		
P	中期計画	第8-2-(9) B C Pの策定 地震、台風など自然災害及び新型コロナウイルス感染症、鳥インフルエンザなどの新興感染時による対応をあらかじめ定めることで来園者・職員の安全を確保する。		
	年度計画	これまでの事案や令和6年度の状況を踏まえ、必要に応じてBCPの改定を行う。		
	評価事例	Ⅲ	・ BCPの検討の推進及び改定	
		Ⅳ	・ BCPの内容について拡大及び充実 （指標：令和3年度策定版）	
		Ⅴ	—	
D	行動	・ 11月、BCP検討会議を開催し、これまでの状況等を踏まえ、動員計画変更の検討や非常用備品の確認などを行った。 また、緊急時連絡受信専用携帯電話の導入について議論し、BCPの記述事項のうち、業務継続計画フロー及び目標復旧レベルの明示について検討した。 今後、業務継続計画フローと事業を構成する重要業務及び目標復旧時間・復旧レベルについて、追加を行う予定。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	BCPの検討を推進するとともに、改定に向けた検討を行ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	今年度はBCPの改定実績はないものの、次年度以降の改定内容について検討を進めていることから、計画を達成したと評価できる。		
A	次年度の年度計画	[51] これまでの事案・災害等を踏まえ、必要に応じてB C Pの改定を行う。		